

胃がん

1	CapeOX	41	カペシタビン+キイトルーダ
2	CapeOX(アレルギー)	42	カペシタビン+キイトルーダ+トラスツズマブ
3	CapeOX+キイトルーダ	43	カペシタビン+ビロイ
4	CapeOX+キイトルーダ(アレルギー)	44	サイラムザ
5	CapeOX+キイトルーダ+トラスツズマブ(1コース目)	45	トラスツズマブ+カペシタビン
6	CapeOX+キイトルーダ+トラスツズマブ(2コース目以降)		
7	CapeOX+キイトルーダ+トラスツズマブ(アレルギー)		
8	CapeOX+ビロイ(1コース目)		
9	CapeOX+ビロイ(2コース目以降)		
10	DOC40+S-1(DS)		
11	G-SOX100		
12	G-SOX100(アレルギー)		
13	G-SOX130+オブジーボ		
14	G-SOX130+オブジーボ(アレルギー)		
15	nFOLFOX6		
16	nFOLFOX6(アレルギー)		
17	nFOLFOX6+オブジーボ		
18	nFOLFOX6+オブジーボ(アレルギー)		
19	nFOLFOX6+トラスツズマブ(1コース目)		
20	nFOLFOX6+トラスツズマブ(アレルギー)		
21	nFOLFOX6+ビロイ(1コース目)		
22	nFOLFOX6+ビロイ(2コース目以降)		
23	MIX+5FU		
24	S-1+オブジーボ		
25	S-1+キイトルーダ+トラスツズマブ		
26	S-1+トラスツズマブ		
27	sLV5FU2		
28	sLV5FU2+オブジーボ		
29	sLV5FU2+トラスツズマブ		
30	sLV5FU2+ビロイ		
31	SOX+キイトルーダ+トラスツズマブ(1コース目)		
32	SOX+キイトルーダ+トラスツズマブ(2コース目以降)		
33	SOX+キイトルーダ+トラスツズマブ(アレルギー)		
34	SOX130+トラスツズマブ(1コース目)		
35	SOX130+トラスツズマブ(2コース目以降)		
36	SOX130+トラスツズマブ(アレルギー)		
37	アブラキサン		
38	アブラキサン+サイラムザ		
39	イリノテカン+サイラムザbi weekly		
40	エンハーツ		

化学療法計画書

2024年10月改訂

治療法名		CapeOX			
コース数		コース目			
腫瘍種	大腸癌/胃癌				
患者氏名		♂	年齢		
患者ID		生年月日			
部署		主治医	科名	医師名	
開始予定日					
治療内容	Day	1	8	15	22
	治療予定日	1/0		1/14	1/21
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓			
カペシタビン	2000 mg/m ²	→ (朝・夕食後)			
デキサート	6.6mg	↓			
パロノセトロン	0.75mg	↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓			
ピリドキサル	60mg		→ (朝・夕食後)		
治療開始日		治療 間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min		

Day1

- 1) パロノセトロン 0.75mg 30分
↓
- 2) 5%ブドウ糖 250mL
デキサート 6.6mg 2h
オキサリプラチン 180mg (温罨法) 穿刺部位の十分な観察
↓
- 3) 生理食塩液 50mL フラッシュ

カペシタビン 投与量	
体表面積	1回用量
1.36m ² 未満	1200mg (4錠)
1.36m ² ~1.66m ² 未満	1500mg (5錠)
1.66m ² ~1.96m ² 未満	1800mg (6錠)
1.96m ² 以上	2100mg (7錠)
カペシタビン減量時投与量	
体表面積	1回用量
	減量1段階 減量2段階
1.41m ² 未満	900mg 600mg
1.41m ² ~1.51m ² 未満	1200mg 900mg
1.51m ² ~1.81m ² 未満	
1.81m ² ~2.11m ² 未満	1500mg 1200mg
2.11m ² 以上	

カペシタビン、ピリドキサルはDay1の夕から
デカドロンはDay2の朝から

投与開始基準

1. 好中球1,500以上 2. 血小板7.5万以上
 2. 脳転移のない患者 4. PS 0-1
 4. AST/ALT<100 5. T-Bil<2
 6. Cr<1.5×ULN
- カペシタビン (CCr<30未満は禁忌、30≦CCr≦50は75%量)

オキサリプラチン減量基準

1. 好中球 500未満
2. 血小板5万未満
3. G3以上の有害事象⇒オキサリプラチン100mg/m²に減量 (2回目発現時; 85mg/m²に減量)

カペシタビンの休薬・減量基準

- ・ G2の副作用⇒G0-1まで休薬 (再開時同一用量)
2回目; 減量1段階 3回目; 減量2段階で再開
- ・ G3の副作用⇒G0-1まで休薬→減量1段階で再開
2回目; 減量2段階で再開

化学療法計画書

2024年10月改訂

治療法名	CapeOX (アレルギー)				
コース数		コース目			
腫瘍種	大腸癌/胃癌				
患者氏名		♂	年齢		
患者ID		生年月日			
部署		主治医	科名	医師名	
開始予定日					
治療内容	Day 1	8	15	22	
	治療予定日	1/0	1/14	1/21	
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓			
カペシタビン	2000 mg/m ²	→ (朝・夕食後)			
デキサート	13.2mg	↓ (6.6mg × 2)			
パロノセトロン	0.75mg	↓			
ファモチジン	1A	↓			
レスタミン	5錠	↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓			
ピリドキサル	60mg	→ (朝・夕食後)			
治療開始日		治療 間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	65 mL/min		

Day1

- | | | |
|---------|--------|-----|
| パロノセトロン | 0.75mg | 30分 |
| デキサート | 6.6mg | |
| ファモチジン | 1A | |

↓

1) 開始と共にレスタミン内服
- | | | |
|----------|-------|------------------|
| 5%ブドウ糖 | 250mL | |
| デキサート | 6.6mg | 2h |
| オキサリプラチン | 180mg | (温巻法) 穿刺部位の十分な観察 |

↓
- | | | |
|-------|------|-------|
| 生理食塩液 | 50mL | フラッシュ |
|-------|------|-------|

投与開始基準	
1. 好中球	1,500以上
2. 血小板	7.5万以上
3. 脳転移のない患者	4. P S 0-1
4. AST/ALT	<100
5. T-Bil	<2
6. Cr	<1.5 × ULN
カペシタビン (CCr < 30未満は禁忌、30 ≤ CCr ≤ 50は75%量)	

オキサリプラチン減量基準	
1. 好中球	500未満
2. 血小板	5万未満
3. G3以上の有害事象	⇒オキサリプラチン100mg/m ² に減量 (2回目発現時; 85mg/m ² に減量)

カペシタビン 投与量		
体表面積	1回用量	
1. 36m ² 未満	1200mg (4錠)	
1. 36m ² ~1.66m ² 未満	1500mg (5錠)	
1. 66m ² ~1.96m ² 未満	1800mg (6錠)	
1. 96m ² 以上	2100mg (7錠)	
カペシタビン減量時投与量		
体表面積	1回用量	
	減量1段階	減量2段階
1. 41m ² 未満	900mg	600mg
1. 41m ² ~1.51m ² 未満	1200mg	
1. 51m ² ~1.81m ² 未満	1500mg	900mg
1. 81m ² ~2.11m ² 未満		1200mg
2. 11m ² 以上		1200mg

カペシタビンの休薬・減量基準	
・ G2の副作用	⇒G0-1まで休薬 (再開時同一用量) 2回目: 減量1段階 3回目: 減量2段階で再開
・ G3の副作用	⇒G0-1まで休薬→減量1段階で再開 2回目: 減量2段階で再開

カペシタビン、ピリドキサルはDay1の夕から
デカドロンはDay2の朝から

化学療法計画書

2024年10月改訂

治療法名	CapeOX/キイトルーダ			
コース数		コース目		
腫瘍種	胃癌（切除不能/進行再発）			
患者氏名		♂	年齢	
開始予定日	患者ID	生年月日		
	部署	主治医	科名	医師名
治療内容	Day 1	8	15	22
	治療予定日	1/0	1/14	1/21
キイトルーダ	200 mg	↓		
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓		
カペシタビン	2000 mg/m ²	→	(朝・夕食後)	
デキサート	6.6mg	↓		
パロノセトロン	0.75mg	↓		
デカロン	8mg	↓↓↓		
ピリドキサル	60mg	→	(朝・夕食後)	
治療開始日		治療間隔	3週毎	予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min	コース

インラインフィルターを使用	
Day1	
1) 生理食塩液	50mL 血管確保
↓	
2) 生理食塩液	50mL
キイトルーダ	200mg 30分
↓	
3) 生理食塩液	50mL フラッシュ
↓	
4) パロノセトロン	0.75mg 30分
↓	
5) 5%ブドウ糖	250mL
デキサート	6.6mg 2h
オキサリプラチン	180mg (温電法) 穿刺部位の十分な観察
↓	
6) 生理食塩液	50mL フラッシュ

投与開始基準
1. 好中球1,500以上 2. 血小板7.5万以上
3. 脳転移のない患者 4. PS 0-1
5. AST/ALT<100 6. T-Bil<2
7. Cr<1.5×ULN
カペシタビン (CCr<30未満は禁忌、30≤CCr≤50は75%量)

オキサリプラチン減量基準
1. 好中球 500未満
2. 血小板5万未満
3. G3以上の有害事象⇒オキサリプラチン100mg/m ² に減量 (2回目発現時; 85mg/m ² に減量)

カペシタビンの休薬・減量基準
・ G2の副作用⇒G0-1まで休薬 (再開時同一用量) 2回目; 減量1段階 3回目; 減量2段階で再開
・ G3の副作用⇒G0-1まで休薬⇒減量1段階で再開 2回目; 減量2段階で再開

カペシタビン投与量	
体表面積	1回用量
1. 36m ² 未満	1200mg (4錠)
1. 36m ² ~1. 66m ² 未満	1500mg (5錠)
1. 66m ² ~1. 96m ² 未満	1800mg (6錠)
1. 96m ² 以上	2100mg (7錠)
カペシタビン減量時投与量	
体表面積	1回用量
	減量1段階 減量2段階
1. 41m ² 未満	900mg
1. 41m ² ~1. 51m ² 未満	1200mg
1. 51m ² ~1. 81m ² 未満	1500mg
1. 81m ² ~2. 11m ² 未満	1200mg
2. 11m ² 以上	900mg

カペシタビン、ピリドキサルはDay1の夕から
デカロンはDay2の朝から

化学療法計画書

2024年10月改訂

治療法名	Cape0X/キイトルーダ (アレルギー)			
コース数		コース目		
腫瘍種	胃癌 (切除不能/進行再発)			
患者氏名		♂	年齢	
患者ID		生年月日		
部署		主治医	科名	医師名
開始予定日				
治療内容	Day 1	8	15	22
	治療予定日	1/0	1/14	1/21
キイトルーダ	200 mg	↓		
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓		
カペシタビン	2000 mg/m ²	→ (朝・夕食後)		
デキサート	13.2mg	↓ (6.6mg × 2回)		
パロノセトロン	0.75mg	↓		
ファモチジン	1A			
デカドロン	8mg	↓↓↓		
レスタミン	5錠			
ピリドキサル	60mg		→ (朝・夕食後)	
治療開始日		治療間隔	3週毎	予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min	1.433 m ²

インラインフィルターを使用

Day1

- 1) 生理食塩液 50mL 血管確保
↓
- 2) 生理食塩液 50mL
キイトルーダ 200mg 30分
↓
- 3) 生理食塩液 50mL フラッシュ
↓
- 4) パロノセトロン 0.75mg 30分
デキサート 6.6mg
ファモチジン 1A 4) 開始と共にレスタミン内服
↓
- 5) 5%ブドウ糖 250mL
デキサート 6.6mg 2h
オキサリプラチン 180mg (温電法) 穿刺部位の十分な観察
↓
- 6) 生理食塩液 50mL フラッシュ

投与開始基準

1. 好中球 1,500以上
 2. 血小板 7.5万以上
 3. 脳転移のない患者
 4. P S 0-1
 5. T-Bil < 2
 6. Cr < 1.5 × ULN
- カペシタビン (CCr < 30未満は禁忌、30 ≤ CCr ≤ 50は75%量)

オキサリプラチン減量基準

1. 好中球 500未満
2. 血小板 5万未満
3. G3以上の有害事象 ⇒ オキサリプラチン 100mg/m² に減量 (2回目発現時; 85mg/m² に減量)

カペシタビンの休薬・減量基準

- ・ G2の副作用 ⇒ G0-1まで休薬 (再開時同一用量)
2回目: 減量1段階 3回目: 減量2段階で再開
- ・ G3の副作用 ⇒ G0-1まで休薬 → 減量1段階で再開
2回目: 減量2段階で再開

カペシタビン 投与量

体表面積	1回用量
1. 36m ² 未満	1200mg (4錠)
1. 36m ² ~1. 66m ² 未満	1500mg (5錠)
1. 66m ² ~1. 96m ² 未満	1800mg (6錠)
1. 96m ² 以上	2100mg (7錠)

カペシタビン減量時投与量

体表面積	1回用量	
	減量1段階	減量2段階
1. 41m ² 未満	900mg	600mg
1. 41m ² ~1. 51m ² 未満	1200mg	
1. 51m ² ~1. 81m ² 未満	1500mg	900mg
1. 81m ² ~2. 11m ² 未満		1200mg

カペシタビン、ピリドキサルはDay1の夕から
デカドロンはDay2の朝から

化学療法計画書

2025年7月作成

治療法名	Cape0X/キイトルーダ/トラスツズマブ		
コース数	1	コース目	初回
腫瘍種	胃癌 (切除不能/進行再発)		
患者氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	
部署		主治医	科名
医師名			
開始予定日			
治療内容	Day	1 8 15 22	
治療予定日	1/0	1/14	1/21
キイトルーダ トラスツズマブ オキサリプラチン カペシタビン	200 mg 8 mg/kg 130 mg/m ² 2000 mg/m ²	↓ ↓ ↓ ↓	(朝・夕食後)
デキサート パロノセトロン デカドロン ピリドキサル	6.6mg 0.75mg 8mg 60mg	↓ ↓ ↓↓↓	(朝・夕食後)
治療開始日		治療間隔	3週毎
身長	150 cm	体重	50 kg
eGFR	79 mL/min	BSA	1.433 m ²
eGFR/BSA			65 mL/min

インラインフィルターを使用 Day1

- 1) 生理食塩液 50mL 10分
- ↓
- 2) 生理食塩液 50mL
キイトルーダ 200mg 30分
- ↓
- 3) 生理食塩液 50mL 10分
- ↓
- 4) 生理食塩液 250mL
トラスツズマブ 400mg 90分
- ↓
- 5) パロノセトロン 0.75mg 30分
- ↓
- 6) 5%ブドウ糖 250mL
デキサート 6.6mg 2h
オキサリプラチン 180mg (温罨法) 穿刺部位の十分な観察
- ↓
- 7) 生理食塩液 50mL 全開

インフュージョンリアクション
に注意

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 1,500以上 Hb ≥ 9 AST/ALT ≤ ULN × 2.5 Cr ≤ 1.5 × ULN PT/INR 及び aPTT ≤ ULN × 1.5 カペシタビン (CCr < 30未満は禁忌、30 ≤ CCr ≤ 50は75%量)
<ul style="list-style-type: none"> HER2過剰発現あり PD-L1 CPS ≥ 1 LVEF 55%以上

オキサリプラチン減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 500未満 血小板5万未満 FN G3以上の有害事象 ⇒ オキサリプラチン100mg/m²に減量 (2回目発現時: 75mg/m²に減量 → 3回目: 50mg/m²に減量)

カペシタビンの休薬・減量基準
<ul style="list-style-type: none"> G2の副作用 ⇒ G0-1まで休薬 (再開時同一用量) 2回目: 減量1段階 3回目: 減量2段階で再開 G3の副作用 ⇒ G0-1まで休薬 → 減量1段階で再開 2回目: 減量2段階で再開

トラスツズマブの休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> LVEF ベースラインから16%以上の低下 ベースラインから10%以上の低下かつ正常下限を下回る うっ血性心不全

心機能モニタリング12週毎

カペシタビン、ピリドキサルはDay1の夕から
デカドロンはDay2の朝から

カペシタビン投与量			
体表面積	1回用量		
1.36m ² 未満	1200mg (4錠)		
1.36m ² ~1.66m ² 未満	1500mg (5錠)		
1.66m ² ~1.96m ² 未満	1800mg (6錠)		
1.96m ² 以上	2100mg (7錠)		
カペシタビン減量時投与量			
体表面積	1回用量		
	減量1段階		
1.41m ² 未満	900mg		
1.41m ² ~1.51m ² 未満	1200mg		
1.51m ² ~1.81m ² 未満	1500mg		
1.81m ² ~2.11m ² 未満	1800mg		
2.11m ² 以上	2100mg		
	減量2段階		
1.41m ² 未満	600mg		
1.41m ² ~1.51m ² 未満	900mg		
1.51m ² ~1.81m ² 未満	1200mg		
1.81m ² ~2.11m ² 未満	1500mg		
2.11m ² 以上	1800mg		
オキサリプラチン減量基準			
0	(-1)	(-2)	(-3)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²	50mg/m ²

化学療法計画書

2025年7月作成

治療法名	Cape0X/キイトルーダ/トラスツズマブ			
コース数		コース目 (2コース目以降)		
腫瘍種	胃癌 (切除不能/進行再発)			
患者氏名		♂	年齢	
患者ID		生年月日		
部署		主治医	科名	医師名
開始予定日				
治療内容	Day	1 8 15 22		
	治療予定日	1/0	1/14	1/21
キイトルーダ	200 mg	↓		
トラスツズマブ	6 mg/kg	↓		
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓		
カペシタビン	2000 mg/m ²	→ (朝・夕食後)		
デキサート	6.6mg	↓		
パロノセトロン	0.75mg	↓		
デカドロン	8mg	↓↓↓		
ピリドキサル	60mg			→ (朝・夕食後)
治療開始日		治療間隔	3週毎	予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	65 mL/min	1.433 m ²

インラインフィルターを使用	
Day1	
1) 生理食塩液	50mL 10分
↓	
2) 生理食塩液	50mL
キイトルーダ	200mg 30分
↓	
3) 生理食塩液	50mL 10分
↓	
4) 生理食塩液	250mL
トラスツズマブ	300mg 30分
↓	
5) パロノセトロン	0.75mg 30分
↓	
6) 5%ブドウ糖	250mL
デキサート	6.6mg 2h
オキサリプラチン	180mg (温罨法) 穿刺部位の十分な観察
↓	
7) 生理食塩液	50mL 全開

インフュージョンリアクションに注意

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 1,500以上 Hb ≥ 9 AST/ALT ≤ ULN × 2.5 Cr ≤ 1.5 × ULN PT/INR及びaPTT ≤ ULN × 1.5 血小板 10万以上 PS : 0-1 T-Bil ≤ ULN × 1.5 ALB ≥ 2.5 カペシタビン (CCr < 30未満は禁忌、30 ≤ CCr ≤ 50は75%量)

オキサリプラチン減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 500未満 血小板 5万未満 FN G3以上の有害事象 ⇒ オキサリプラチン 100mg/m² に減量 (2回目発現時 : 75mg/m² に減量 → 3回目 : 50mg/m² に減量)

カペシタビンの休薬・減量基準
<ul style="list-style-type: none"> G2の副作用 ⇒ G0-1まで休薬 (再開時同一用量) 2回目 : 減量1段階 3回目 : 減量2段階で再開 G3の副作用 ⇒ G0-1まで休薬 → 減量1段階で再開 2回目 : 減量2段階で再開

トラスツズマブの休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> LVEF ベースラインから16%以上の低下 ベースラインから10%以上の低下かつ正常下限を下回る うっ血性心不全

心機能モニタリング12週毎

カペシタビン、ピリドキサルはDay1の夕から
デカドロンはDay2の朝から

カペシタビン投与量	
体表面積	1回用量
1.36m ² 未満	1200mg (4錠)
1.36m ² ~1.66m ² 未満	1500mg (5錠)
1.66m ² ~1.96m ² 未満	1800mg (6錠)
1.96m ² 以上	2100mg (7錠)
カペシタビン減量時投与量	
体表面積	1回用量
	減量1段階 減量2段階
1.41m ² 未満	900mg 600mg
1.41m ² ~1.51m ² 未満	1200mg 900mg
1.51m ² ~1.81m ² 未満	1500mg 1200mg
1.81m ² ~2.11m ² 未満	1500mg 1200mg
2.11m ² 以上	1500mg 1200mg
オキサリプラチン減量基準	
0	(-1) (-2) (-3)
130mg/m ²	100mg/m ² 75mg/m ² 50mg/m ²

化学療法計画書

2025年7月作成

治療法名	CapeOX/キイトルーダ/トラスツズマブ (アレルギー)		
コース数		コース目	
腫瘍種	胃癌 (切除不能/進行再発)		
患者氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	
部署		主治医	科名 医師名
開始予定日			
治療内容	Day 1	8	15 22
治療予定日	1/0		1/14 1/21
キイトルーダ	200 mg	↓	
トラスツズマブ	6 mg/kg	↓	
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓	
カペシタビン	2000 mg/m ²	→ (朝・夕食後)	
デキサート	13.2mg	↓ (6.6mg × 2回)	
パロノセトロン	0.75mg	↓	
ファモチジン	1A	↓	
デカドロン	8mg	↓↓↓	
レスタミン	5錠	↓	
ピリドキサル	60mg		→ (朝・夕食後)
治療開始日		治療間隔	3週毎 予定コース コース
身長	150 cm	体重	50 kg BSA 1.433 m ²
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	65 mL/min

インラインフィルターを使用	
Day1	
1) 生理食塩液	50mL 10分
↓	
2) 生理食塩液	50mL 30分
キイトルーダ	200mg
↓	
3) 生理食塩液	50mL 10分
↓	
4) 生理食塩液	250mL 30分
トラスツズマブ	300mg
↓	
5) パロノセトロン	0.75mg
デキサート	6.6mg
ファモチジン	1A
5) 開始と共にレスタミン内服	
↓	
6) 5%ブドウ糖	250mL 2h
デキサート	6.6mg
オキサリプラチン	180mg
(温罨法) 穿刺部位の十分な観察	
↓	
7) 生理食塩液	50mL 全開

インフュージョンリアクションに注意

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 1,500以上 ・ 血小板 10万以上 Hb ≥ 9 ・ PS : 0-1 AST/ALT ≤ ULN × 2.5 ・ T-Bil ≤ ULN × 1.5 Cr ≤ 1.5 × ULN ・ ALB ≥ 2.5 PT/INR 及び aPTT ≤ ULN × 1.5
カペシタビン (CCr < 30未満は禁忌、30 ≤ CCr ≤ 50は75%量)

オキサリプラチン減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 500未満 血小板 5万未満 FN G3以上の有害事象 ⇒ オキサリプラチン 100mg/m²に減量 (2回目発現時 ; 75mg/m²に減量 → 3回目 ; 50mg/m²に減量)

カペシタビンの休薬・減量基準
<ul style="list-style-type: none"> G2の副作用 ⇒ G0-1まで休薬 (再開時同一用量) 2回目 : 減量1段階 3回目 : 減量2段階で再開 G3の副作用 ⇒ G0-1まで休薬 → 減量1段階で再開 2回目 : 減量2段階で再開

トラスツズマブの休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> LVEF ベースラインから16%以上の低下 ベースラインから10%以上の低下かつ正常下限を下回る うっ血性心不全

心機能モニタリング12週毎

カペシタビン、ピリドキサルはDay1の夕から
デカドロンはDay2の朝から

カペシタビン投与量			
体表面積	1回用量		
1.36m ² 未満	1200mg (4錠)		
1.36m ² ~1.66m ² 未満	1500mg (5錠)		
1.66m ² ~1.96m ² 未満	1800mg (6錠)		
1.96m ² 以上	2100mg (7錠)		
カペシタビン減量時投与量			
体表面積	1回用量		
	減量1段階	減量2段階	
1.41m ² 未満	900mg	600mg	
1.41m ² ~1.51m ² 未満	1200mg		
1.51m ² ~1.81m ² 未満		900mg	
1.81m ² ~2.11m ² 未満	1500mg		
2.11m ² 以上		1200mg	
オキサリプラチン減量基準			
0	(-1)	(-2)	(-3)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²	50mg/m ²

化学療法計画書

2024年10月改訂

治療法名	CapeOX+ビロイ				
コース数	1	コース目			
腫瘍種	胃癌 (CLDN18.2陽性)				
患者氏名		♂	年齢		
患者ID		生年月日			
部署		主治医	科名	医師名	
開始予定日					
治療内容	Day	1	8	15	22
	治療予定日	1/0		1/14	1/21
ビロイ	800 mg/m ²	↓			
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓			
カペシタビン	2000 mg/m ²	→ (朝・夕食後)			
デキサート	16.5mg	↓			
ポララミン	1 A	↓			
アセリオ	400mg	↓			
ファモチジン	1 A	↓			
パロノセトロン	0.75mg	↓			
アロカリス	235mg	↓			
オランザピン	5mg	↓↓↓↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓			
ピリドキサル	60mg				→ (朝・夕食後)
治療開始日		治療 間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min		

Day0

夕方にオランザピン5mg内服

Day1

1) アセリオ	400mg	
ポララミン	1 A	
デキサート	9.9mg	
ファモチジン	1 A	15分

2) パロノセトロン	0.75mg	
アロカリス	235mg	30分

3) 生理食塩液	50mL	10分
----------	------	-----

4) 生理食塩液	500mL	総投与量 (mL) = 投与量 (mg) ÷ 2 (mg/mL)
ビロイ	1140mg	
投与速度: 75mL/hで1時間→100mL/hで1時間→150mL/h (終了まで維持) 6時間以内に終了 悪心/嘔吐、インフュージョンリアクション生じた時は主治医と相談		

5) 生理食塩液	50mL	10分
----------	------	-----

6) 5%ブドウ糖	250mL	2 h (温罨法) 穿刺部位の十分な観察
デキサート	6.6mg	
オキサリプラチン	180mg	

7) 生理食塩液	50mL	フラッシュ
----------	------	-------

投与開始基準

- HER2陰性
- 好中球1,500以上
 - 血小板10万以上
 - Hb ≥ 9
 - PS : 0-1
 - ALB ≥ 2.5
 - T-Bil ≤ ULN × 1.5 (肝転移 ≤ ULN × 3.0)
 - AST/ALT ≤ ULN × 2.5 (肝転移 ≤ ULN × 5)
 - CCr ≥ 30
 - PT/INR及びPTT ≤ ULN × 1.5
- カペシタビン (CCr < 30未達は禁忌、30 ≤ CCr ≤ 50は75%量)

オキサリプラチン減量基準

- 好中球500未満
- 血小板5万未満
- G3以上の有害事象⇒オキサリプラチン100mg/m²に減量 (2回目発現時; 85mg/m²に減量)

カペシタビンの休薬・減量基準

- G2の副作用⇒G0-1まで休薬 (再開時同一用量) 2回目; 減量1段階 3回目; 減量2段階で再開
- G3の副作用⇒G0-1まで休薬→減量1段階で再開 2回目; 減量2段階で再開

カペシタビン 投与量	
体表面積	1回用量
1. 36m ² 未満	1200mg (4錠)
1. 36m ² ~1. 66m ² 未満	1500mg (5錠)
1. 66m ² ~1. 96m ² 未満	1800mg (6錠)
1. 96m ² 以上	2100mg (7錠)
カペシタビン減量時投与量	
体表面積	1回用量
	減量1段階 減量2段階
1. 41m ² 未満	900mg 600mg
1. 41m ² ~1. 51m ² 未満	1200mg 900mg
1. 51m ² ~1. 81m ² 未満	1500mg 1200mg
1. 81m ² ~2. 11m ² 未満	
2. 11m ² 以上	1200mg

オランザピンはDay0の夕から
カペシタビン、ピリドキサルはDay1の夕から
デカドロンはDay2の朝から

化学療法計画書

2024年10月改訂

治療法名	Cape0X+ビロイ				
コース数		コース目	(2回目以降)		
腫瘍種	胃癌 (CLDN18.2陽性)				
患者氏名		♂	年齢		
患者ID		生年月日			
部署		主治医	科名	医師名	
開始予定日					
治療内容	Day	1	8	15	22
	治療予定日	1/0		1/14	1/21
ビロイ	600 mg/m ²	↓			
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓			
カペシタビン	2000 mg/m ²				(朝・夕食後)
デキサート	16.5mg	↓			
ポララミン	1 A	↓			
アセリオ	400mg	↓			
ファモチジン	1 A	↓			
パロノセトロン	0.75mg	↓			
アロカリス	235mg	↓			
オランザピン	5mg	↓↓↓↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓			
ピリドキサル	60mg				(朝・夕食後)
治療開始日		治療 間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min		

Day0

夕方にオランザピン5mg内服

Day1

1) アセリオ	400mg	15分
ポララミン	1 A	
デキサート	9.9mg	
ファモチジン	1 A	

2) パロノセトロン	0.75mg	30分
アロカリス	235mg	

3) 生理食塩液	50mL	10分
----------	------	-----

4) 生理食塩液	500mL	総投与量 (mL) = 投与量 (mg) ÷ 2 (mg/mL)
ビロイ	850mg	投与速度: 100mL/hで1時間→150mL/hで1時間 →200mL/h (終了まで維持) 6時間以内に終了 悪心・嘔吐、インフュージョンリアクション生じた時は 主治医と相談

5) 生理食塩液	50mL	10分
----------	------	-----

6) 5%ブドウ糖	250mL	
デキサート	6.6mg	2h
オキサリプラチン	180mg	(温罨法) 穿刺部位の十分な観察

7) 生理食塩液	50mL	フラッシュ
----------	------	-------

投与開始基準
HER2陰性
1. 好中球1,500以上 2. 血小板10万以上 3. Hb≥9 4. PS: 0-1 5. ALB≥2.5 6. T-Bil≤ULN×1.5 (肝転移≤ULN×3.0) 7. AST/ALT≤ULN×2.5 (肝転移≤ULN×5) 8. CCr≥30 9. PT/INR及びPTT≤ULN×1.5 カペシタビン (CCr<30は禁忌、30≤CCr≤50は75%量)

オキサリプラチン減量基準
1. 好中球500未満 2. 血小板5万未満 3. G3以上の有害事象⇒オキサリプラチン100mg/m ² に減量 (2回目発現時; 85mg/m ² に減量)

カペシタビンの休薬・減量基準
・ G2の副作用⇒G0-1まで休薬 (再開時同一用量) 2回目: 減量1段階 3回目: 減量2段階で再開 ・ G3の副作用⇒G0-1まで休薬→減量1段階で再開 2回目: 減量2段階で再開

カペシタビン 投与量	
体表面積	1回用量
1. 36m ² 未満	1200mg (4錠)
1. 36m ² ~1. 66m ² 未満	1500mg (5錠)
1. 66m ² ~1. 96m ² 未満	1800mg (6錠)
1. 96m ² 以上	2100mg (7錠)
カペシタビン減量時投与量	
体表面積	1回用量
	減量1段階 減量2段階
1. 41m ² 未満	900mg 600mg
1. 41m ² ~1. 51m ² 未満	1200mg 900mg
1. 51m ² ~1. 81m ² 未満	1500mg 1200mg
1. 81m ² ~2. 11m ² 未満	
2. 11m ² 以上	

オランザピンはDay0の夕から
カペシタビン、ピリドキサルはDay1の夕から
デカドロンはDay2の朝から

化学療法計画書

2024年5月 作成

治療法名		ドセタキセル/S-1													
コース数		2		コース目											
腫瘍種	胃癌 Ⅲ期(術後)														
氏名							♂	年齢							
患者ID							生年月日								
部署					主治医		科名	医師名							
開始予定日															
治療内容	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	...	15	...	22	...	29
	予定日	1/0					1/7			1/14			1/21		
ドセタキセル	40 mg/m ²	↓													
エスワン	80 mg/m ²	→													
グラニセトロン	1 mg	↓													
デキサート	6.6mg	↓													
デカドロン	8mg	↓↓↓													
治療開始日					治療間隔	3週毎		予定コース数	2-7		コース				
身長	150	cm	体重	50	kg	BSA	1.433 m ²								
eGFR	60	mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min											

Day 1

投与開始基準 ・好中球>2000 ・AST/ALT<2xULN, T-Bil<1.5 (肝転移による上昇除く) ・G2以上の非血液毒性がない ・PS 0-1. PS 2は十分注意 ・AST/ALT>1.5xULNかつALP>2.5xULN, またはT.Bil>1.2 →減量考慮
次コースからの減量基準 ・WBC<1000、好中球<500 ・Plt<5万 ・発熱性好中球減少 ・悪心嘔吐、脱毛除くG3以上の非血液毒性

エスワンの投与量			
BSA <1.25 (m ²)	20mg	4錠/分2	
1.25-1.5	25mg	4錠/分2	
1.5<	20mg	6錠/分2	

エスワン減量基準 120mg→100mg→80mg
ドセタキセル減量基準 5mg/m ² ずつ2段階まで

エスワンの同一クール内での休薬が8日以上
→次コースとして再開

1) グラニセトロン	1mg	30分
デキサート	6.6mg	
↓		
2) 5%ブドウ糖	250mL	60分
ドセタキセル	57mg	
↓		
3) 生理食塩液	50mL	全開

* 投与開始時まず5mL早送りし、10分間は50mL/hとして
ベッドサイドで嚴重にアレルギー症状を観察
問題なければ250mL/hへ

- ・1コース目はエスワンのみ (2投1休) 8コース目以降、エスワンのみ (4投2休)
- ・エスワンは Day 1 タから内服
- ・デカドロン錠は Day 2 朝から内服

化学療法計画書

2024年10月改訂

治療法名	G-SOX100			
コース数		コース目		
腫瘍種	胃癌			
患者氏名		♂	年齢	
患者ID		生年月日		
部署		主治医	科名	医師名
開始予定日				
治療内容	Day 1	8	15	22
	治療予定日	1/0	1/14	1/21
オキサリプラチン	100 mg/m ²	↓		
エスワン	60 mg/回	→(朝・夕食後)		
デキサート	6.6mg	↓		
パロノセトロン	0.75mg	↓		
デカドロン	8mg	↓↓↓		
治療開始日		治療 間隔	3週毎	予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min	1.433 m ²

Day1		
1) パロノセトロン	0.75mg	30分
↓		
2) 5%ブドウ糖	250mL	
デキサート	6.6mg	2h
オキサリプラチン	140mg	(温罨法) 穿刺部位の十分な観察
↓		
3) 生理食塩液	50mL	フラッシュ

Day 1(夕食後開始) ~ Day15 (朝食後まで)		
Rp) S-1		BSA (m ²)
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 ≥ 3000 好中球 ≥ 1500 ・ Pit ≥ 75000 AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200) Cr < 1.5 下痢、口内炎 ≤ G1 神経障害 ≤ G2
S-1クール内休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 ・ Pit < 75000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2 ・ 粘膜炎/口内炎 ≥ G2
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 ・ Pit ≥ 75000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1 ・ 粘膜炎/口内炎 ≤ G1

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
オキサリプラチン減量基準		
	(-1)	(-2)
0		
100mg/m ²	75mg/m ²	50mg/m ²

オキサリプラチン減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはDay22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 75000 またはDay22に75000以上100000未満の場合 FN
S-1減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはDay22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 50000 FN 下痢 ≥ G3以上

デカドロンはDay2の朝から
S-1は当日夕から

化学療法計画書

2024年10月改訂

治療法名		G-SOX100 (アレルギー)			
コース数		コース目			
腫瘍種		胃癌			
患者氏名		♂	年齢		
患者ID		生年月日			
開始予定日		部署		主治医	科名 医師名
治療内容		Day 1 8 15 22			
治療予定日		1/0		1/14	1/21
オキサリプラチン 100 mg/m ²		↓			
エスワン 60 mg/回		→(朝・夕食後)			
デキサート 13.2mg		↓ (6.6mg × 2)			
パロノセトロン 0.75mg		↓			
デカドロン 8mg		↓↓↓			
ファモチジン 1A		↓			
レスタミン 5錠		↓			
治療開始日		治療 間隔		3週毎	予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min		

Day1		
1) パロノセトロン 0.75mg	30分	1) 開始と共にレスタミン内服
デキサート 6.6mg		
ファモチジン 1A		
↓		
2) 5%ブドウ糖 250mL		(温罨法) 穿刺部位の十分な観察
デキサート 6.6mg	2h	
オキサリプラチン 140mg		
↓		
3) 生理食塩液 50mL	フラッシュ	

Day 1(夕食後開始) ~Day15 (朝食後まで)		
Rp) S-1		BSA (m ²)
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 ≥ 3000 好中球 ≥ 1500 ・ Plt ≥ 75000 AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200) Cr < 1.5 下痢、口内炎 ≤ G1 神経障害 ≤ G2
S-1クール内休業基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 ・ Plt < 75000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2 ・ 粘膜炎/口内炎 ≥ G2
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 ・ Plt ≥ 75000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1 ・ 粘膜炎/口内炎 ≤ G1

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
オキサリプラチン減量基準		
0	(-1)	(-2)
100mg/m ²	75mg/m ²	50mg/m ²

オキサリプラチン減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはDay22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 75000 またはDay22に75000以上100000未満の場合 FN
S-1減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはDay22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 50000 FN 下痢 ≥ G3以上

デカドロンはDay2の朝から
S-1は当日夕から

化学療法計画書

2024年10月改訂

治療法名		G-SOX130/オプジーボ			
コース数		コース目			
腫瘍種		胃癌(切除不能/進行再発)			
患者氏名				♂	年齢
患者ID		生年月日			
部署		主治医		科名	医師名
開始予定日					
治療内容	Day	1	2	3	4
	治療予定日	1/0	1/14	1/21	
オプジーボ	360 mg				
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓			
エスワン	60 mg/回	→(朝・夕食後)			
デキサート	6.6mg	↓			
パロノセトロン	0.75mg	↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓			
治療開始日			治療 間隔	3週毎	予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min		

インラインフィルターを使用

Day1	
1) 生理食塩液	50mL 血管確保
↓	
2) 生理食塩液	50mL
オプジーボ	360mg 30分
↓	
3) 生理食塩液	50mL フラッシュ
↓	
4) パロノセトロン	0.75mg 30分
↓	
5) 5%ブドウ糖	250mL
デキサート	6.6mg 2h
オキサリプラチン	180mg (温罨法) 穿刺部位の十分な観察
↓	
6) 生理食塩液	50mL フラッシュ

投与開始基準

- ・白血球 ≥ 3000
- ・好中球 ≥ 1500 ・Plt ≥ 75000
- ・AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200)
- ・Cr < 1.5
- ・下痢、口内炎 ≤ G1
- ・神経障害 ≤ G2

S-1クール内休薬基準

- ・好中球 < 1000 ・Plt < 75000
- ・AST/ALT ≥ 100
- ・Cr ≥ ULN × 1.5
- ・下痢 ≥ G2 ・粘膜炎/口内炎 ≥ G2

S-1クール内再開基準

- ・好中球 ≥ 1000 ・Plt ≥ 75000
- ・Cr < ULN × 1.5
- ・下痢 ≤ G1 ・粘膜炎/口内炎 ≤ G1

Day 1(夕食後開始) ~ Day15 (朝食後まで)

Rp) S-1	BSA (m ²)	
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

S-1減量

BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
オキサリプラチン減量基準		
0	(-1)	(-2)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²

デカドロンはDay2の朝から
S-1は当日夕から

オキサリプラチン減量基準

- ・白血球 < 1000
 - ・好中球 < 500 (またはDay22にコース開始基準を満たさない場合)
 - ・血小板 < 75000
 - またはDay22に75000以上100000未満の場合
 - ・FN
- ## S-1減量基準
- ・白血球 < 1000
 - ・好中球 < 500 (またはDay22にコース開始基準を満たさない場合)
 - ・血小板 < 50000
 - ・FN
 - ・下痢 ≥ G3以上

化学療法計画書

2024年10月改訂

治療法名		G-SOX130/オプジーボ (アレルギー)			
コース数		コース目			
腫瘍種	胃癌 (切除不能/進行再発)				
患者氏名		♂	年齢		
患者ID		生年月日			
部署		主治医	科名	医師名	
開始予定日					
治療内容	Day	1	8	15	22
	治療予定日	1/0		1/14	1/21
オプジーボ	360 mg	↓			
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓			
エスワン	60 mg/回	→(朝・夕食後)			
デキサート	13.2mg	↓	(6.6mg × 2回)		
パロノセトロン	0.75mg	↓			
ファモチジン	1A	↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓			
レスタミン	5錠	↓			
治療開始日		治療 間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min		

インラインフィルターを使用	
Day1	
1) 生理食塩液	50mL 血管確保
↓	
2) 生理食塩液	50mL
オプジーボ	360mg 30分
↓	
3) 生理食塩液	50mL フラッシュ
↓	
4) パロノセトロン	0.75mg
デキサート	6.6mg
ファモチジン	1A
30分	
↓	
5) 5%ブドウ糖	250mL
デキサート	6.6mg
オキサリプラチン	180mg
2h	
(温罨法) 穿刺部位の十分な観察	
6) 生理食塩液	50mL フラッシュ

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 ≥ 3000 好中球 ≥ 1500 ・ Plt ≥ 75000 AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200) Cr < 1.5 下痢、口内炎 ≤ G1 神経障害 ≤ G2
S-1クール内休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 ・ Plt < 75000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2 ・ 粘膜炎/口内炎 ≥ G2
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 ・ Plt ≥ 75000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1 ・ 粘膜炎/口内炎 ≤ G1

Day 1(夕食後開始) ~ Day15 (朝食後まで)		
Rp) S-1		BSA (m ²)
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
オキサリプラチン減量基準		
0	(-1)	(-2)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²

オキサリプラチン減量基準	
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはDay22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 75000 またはDay22に75000以上100000未満の場合 FN 	
S-1減量基準	
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはDay22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 50000 FN 下痢 ≥ G3以上 	

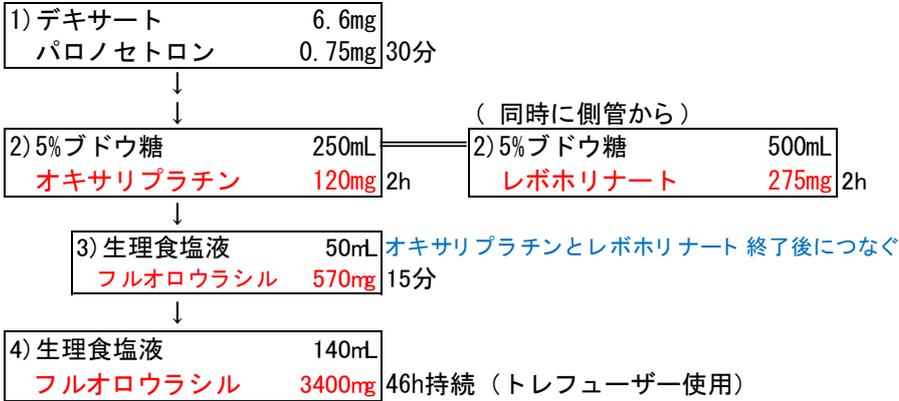
デカドロンはDay2の朝から
S-1は当日夕から

化学療法計画書

2024年10月改訂

治療法名		mFOLFOX6			
コース数		コース目			
腫瘍種		大腸癌/胃癌			
患者氏名				♂	年齢
開始予定日		患者ID		生年月日	
		部署		主治医	科名
				医師名	
治療内容		Day	1	8	15
		予定日	1/0		1/14
レボホリナート	200 mg/m ²	↓			
フルオロウラシル	400 mg/m ²	↓			
フルオロウラシル	2400 mg/m ²	↓			
オキサリプラチン	85 mg/m ²	↓			
デキサート	6.6mg	↓			
パロノセトロン	0.75mg	↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓			
治療開始日		年	月	日	治療 間隔
					2週毎
		予定コース		コース	
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/m ² n		

Day1-2



投与開始基準

- 好中球1500以上
- 血小板7.5万以上
- AST/ALT < 2.5 × ULN
- T-Bil < 1.5 × ULN
- Cr: 1.2未満

減量基準

- 好中球 500未満
 - 血小板5万未満
- フルオロウラシルを20%減量
オキサリプラチンを65mg/m²に減量

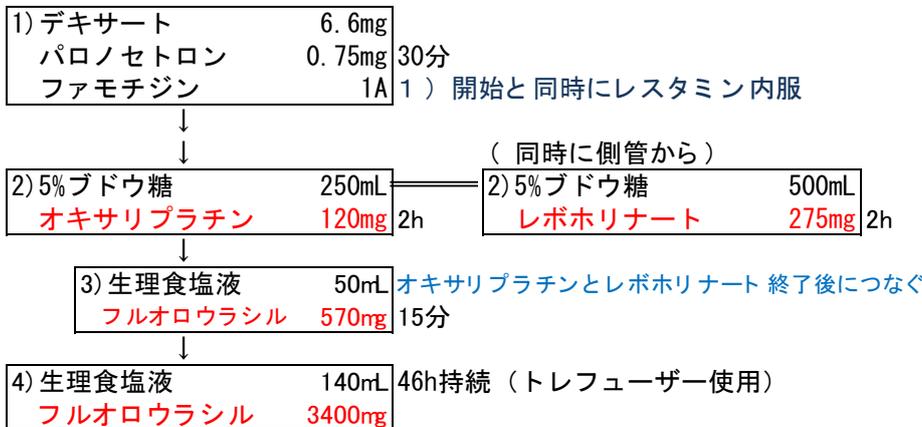
デカドロンはDay2の朝から

化学療法計画書

2024年10月改訂

治療法名		mFOLFOX6 (アレルギー)						
コース数		コース目						
腫瘍種		大腸癌/胃癌						
患者氏名				♂	年齢			
開始予定日		患者ID		生年月日				
		部署		主治医	科名	医師名		
治療内容		Day 1 8 15						
		予定日		1/0		1/14		
レボホリナート		200 ng/m ²	↓					
フルオロウラシル		400 ng/m ²	↓					
フルオロウラシル		2400 ng/m ²	↓					
オキサリプラチン		85 ng/m ²	↓					
デキサート		6.6mg	↓					
パロノセトロン		0.75mg	↓					
デカドロン		8mg	↓↓↓					
レスタミン		5錠	↓					
ファモチジン		1A	↓					
治療開始日		年	月	日	治療 間隔	2週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433	m ²		
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/m ² n					

Day1-2



投与開始基準

- 好中球1500以上
- 血小板7.5万以上
- AST/ALT < 2.5 × ULN
- T-Bil < 1.5 × ULN
- Cr ; 1.2未満

減量基準

- 好中球 500未満
- 血小板5万未満
- フルオロウラシルを20%減量
- オキサリプラチン65mg/m²に減量

* デカドロン錠はDay2の朝から内服

化学療法計画書

2024年10月改訂

治療法名		mFOLFOX6/オプジーボ					
コース数		コース目					
腫瘍種		胃癌（切除不能/進行再発）					
患者氏名						♂	年齢
患者ID		生年月日					
開始予定日		部署		主治医		科名	
						医師名	
治療内容		Day		1		8	
		予定日		1/0		1/14	
オプジーボ		240 ng		↓			
レボホリナート		200 ng/m ²		↓			
フルオロウラシル		400 ng/m ²		↓			
フルオロウラシル		2400 ng/m ²		↓			
オキサリプラチン		85 ng/m ²		↓			
デキサート		6.6mg		↓			
パロノセトロン		0.75mg		↓			
デカドロン		8ng		↓↓↓			
治療開始日		年		月		日	
身長		150 cm		体重		50 kg	
eGFR		60 mL/min		eGFR/BSA		50 mL/m ²	
				治療 間隔		2週毎	
						予定コース	
						コース	

Day1-2			
インラインフィルターを使用			
1) 生理食塩液	50mL	血管確保	
↓			
2) 生理食塩液	50mL	30分	
オプジーボ	240mg		
↓			
3) 生理食塩液	50mL	フラッシュ	
↓			
4) デキサート	6.6mg	30分	
パロノセトロン	0.75mg		
↓			
(同時に側管から)			
5) 5%ブドウ糖	250mL	5) 5%ブドウ糖	500mL
オキサリプラチン	120mg	レボホリナート	275mg
		2h	
↓			
6) 生理食塩液	50mL	オキサリプラチンとレボホリナート終了後につなぐ	
フルオロウラシル	570mg		
		15分	
↓			
7) 生理食塩液	140mL	46h持続 (トレフューザー使用)	
フルオロウラシル	3400mg		

投与開始基準
1. 好中球1500以上
2. 血小板7.5万以上
3. AST/ALT<2.5×ULN
4. T-Bil<1.5×ULN
5. Cr:1.2未満

減量基準
1. 好中球 500未満
2. 血小板5万未満
フルオロウラシルを20%減量
オキサリプラチン65mg/m ² に減量

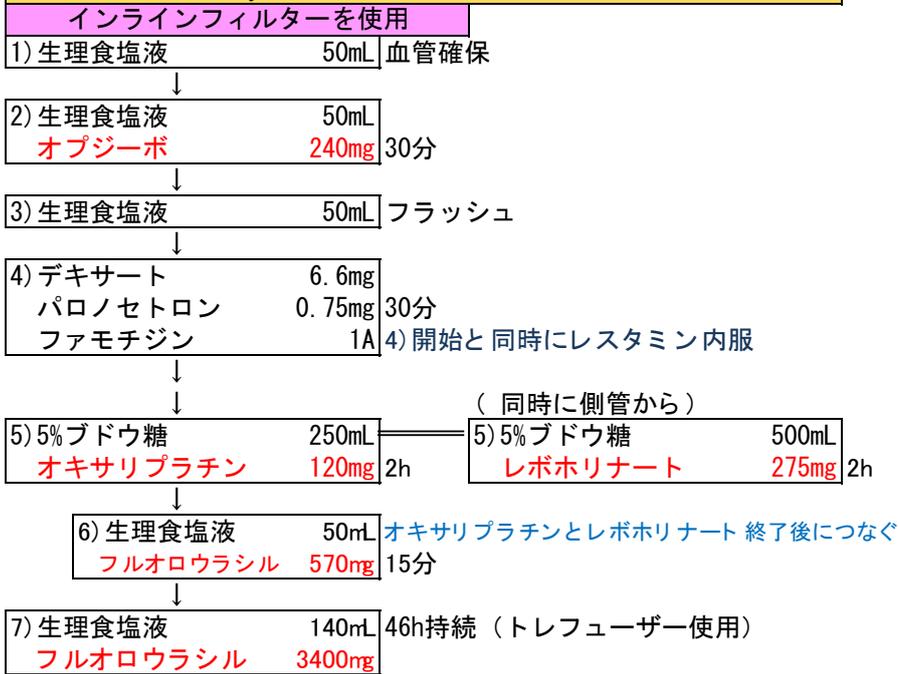
デカドロンはDay2の朝から内服

化学療法計画書

2024年10月改訂

治療法名		mFOLFOX6/オプジーボ(アレルギー)					
コース数		コース目					
腫瘍種	胃癌(切除不能/進行再発)						
患者氏名					♂	年齢	
開始予定日	患者ID	生年月日					
	部署	主治医	科名	医師名			
治療内容	Day	1 8		15			
	予定日	1/0		1/14			
オプジーボ	240 mg	↓					
レボホリナート	200 mg/m ²	↓					
フルオロウラシル	400 mg/m ²	↓					
フルオロウラシル	2400 mg/m ²	↓					
オキサリプラチン	85 mg/m ²	↓					
デキサート	6.6mg	↓					
パロノセトロン	0.75mg	↓					
デカドロン	8mg	↓↓↓					
レスタミン	5錠	↓					
ファモチジン	1A	↓					
治療開始日	年 月 日	治療 間隔	2週毎	予定コース	コース		
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²		
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/mn				

Day1-2



投与開始基準

- 好中球1500以上
- 血小板7.5万以上
- AST/ALT<2.5×ULN
- T-Bil<1.5×ULN
- Cr:1.2未満

減量基準

- 好中球 500未満
- 血小板5万未満
フルオロウラシルを20%減量
オキサリプラチンを65mg/m²に減量

* デカドロン錠はDay2の朝から内服

化学療法計画書

2025年10月作成

治療法名	mFOLFOX6+トラスツズマブ							
コース数	1	コース目						
腫瘍種	胃癌							
患者氏名		性別	♂	年齢				
患者ID		生年月日						
部署		主治医		科名				
医師名								
開始予定日								
治療内容	Day	1	8	15	22	29	36	43
	予定日	1/0	1/14	1/21	1/28			2/11
トラスツズマブ	8 mg/kg	↓		↓				
トラスツズマブ	6 mg/kg			↓				
レボホリナート	200 ng/m ²	↓	↓			↓		
フルオロウラシル	400 ng/m ²	↓	↓			↓		
フルオロウラシル	2400 ng/m ²	↓	↓			↓		
オキサリプラチン	85 ng/m ²	↓	↓			↓		
パロノセトロン	0.75mg	↓	↓			↓		
デキサート	6.6mg	↓	↓			↓		
デカドロン	8mg	↓	↓			↓		
治療開始日	年 月 日							
治療 間隔	6週毎	予定コース		コース				
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²			
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/m ²					

Day1	
1) 生理食塩液	50mL 10分
↓	
2) 生理食塩液 トラスツズマブ	250mL 400mg 90分
↓	
3) パロノセトロン デキサート	0.75mg 6.6mg 30分
↓	
4) 5%ブドウ糖 オキサリプラチン	250mL 120mg 2h
↓	
5) 生理食塩液 フルオロウラシル	50mL 570ng 15分
↓	
6) 生理食塩液 フルオロウラシル	140mL 3400ng 46h持続(トルーザー-使用)

インフュージョンリアクションに注意

(同時に側管から)

4) 5%ブドウ糖	500mL
レボホリナート	275mg 2h

オキサリプラチンとレボホリナート 終了後につなぐ

投与開始基準
1. 好中球1500以上
2. 血小板7.5万以上
3. AST/ALT < 2.5 × ULN
4. T-Bil < 1.5 × ULN
5. Cr: 1.2未満
・ HER2過剰発現あり
・ LVEF50%以上

減量基準
1. 好中球 500未満
2. 血小板 5万未満
フルオロウラシルを20%減量
オキサリプラチンを65mg/m ² に減量

Day15、29	
1) パロノセトロン デキサート	0.75mg 6.6mg 30分
↓	
2) 5%ブドウ糖 オキサリプラチン	250mL 120mg 2h
↓	
3) 生理食塩液 フルオロウラシル	50mL 570ng 15分
↓	
4) 生理食塩液 フルオロウラシル	140mL 3400ng 46h持続(トルーザー-使用)

(同時に側管から)

2) 5%ブドウ糖	500mL
レボホリナート	275mg 2h

オキサリプラチンとレボホリナート 終了後につなぐ

Day22	
1) 生理食塩液	50mL 10分
↓	
2) 生理食塩液 トラスツズマブ	250mL 300mg 30分
↓	
3) 生理食塩液	50mL 10分

インフュージョンリアクションに注意

心機能測定は12週間に1回を目安

デカドロンはFOLFOX翌日の朝から3日間

化学療法計画書

2025年10月作成

治療法名	mFOLFOX6+トラスツズマブ (アルギン)				
コース数		コース目			
腫瘍種	胃癌				
患者氏名		性別	♂	年齢	
患者ID		生年月日			
部署		主治医		科名	医師名
開始予定日	Day 1	8	15	22	29
治療内容	予定日	1/0	1/14	1/21	1/28
トラスツズマブ	6 mg/kg	↓		↓	
レボホリナート	200 mg/m ²	↓	↓		↓
フルオロウラシル	400 mg/m ²	↓	↓		↓
フルオロウラシル	2400 ng/m ²	↓	↓		↓
オキサリプラチン	85 ng/m ²	↓	↓		↓
パロノセトロン	0.75mg	↓	↓		↓
デキサート	6.6mg	↓	↓		↓
ファモチジン	1A	↓	↓		↓
レスタミン	5錠	↓	↓		↓
デカドロン	8mg	↓↓↓	↓↓↓		↓↓↓
治療開始日	年 月 日	治療	間隔	6週毎	予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min		

Day 1	
1) 生理食塩液	50mL 10分
↓	
2) 生理食塩液	250mL
トラスツズマブ	300mg 30分
↓	
3) パロノセトロン	0.75mg
デキサート	6.6mg
ファモチジン	1A
↓	
4) 5%ブドウ糖	250mL
オキサリプラチン	120mg 2h
↓	
5) 生理食塩液	50mL
フルオロウラシル	570mg 15分
↓	
6) 生理食塩液	140mL
フルオロウラシル	3400ng 46h持続 (トルーザー-使用)

投与開始基準
1. 好中球1500以上
2. 血小板7.5万以上
3. AST/ALT < 2.5 × ULN
4. T-Bil < 1.5 × ULN
5. Cr: 1.2未満
・ LVEF50%以上

減量基準
1. 好中球 500未満
2. 血小板 5万未満
フルオロウラシルを20%減量
オキサリプラチンを65mg/m ² に減量

Day 15、29	
1) パロノセトロン	0.75mg
デキサート	6.6mg
ファモチジン	1A
↓	
2) 5%ブドウ糖	250mL
オキサリプラチン	120mg 2h
↓	
3) 生理食塩液	50mL
フルオロウラシル	570mg 15分
↓	
4) 生理食塩液	140mL
フルオロウラシル	3400ng 46h持続 (トルーザー-使用)

Day 22	
1) 生理食塩液	50mL 10分
↓	
2) 生理食塩液	250mL
トラスツズマブ	300mg 30分
↓	
3) 生理食塩液	50mL 10分

心機能測定は12週間に1回を目安

デカドロンはFOLFOX翌日の朝から3日間

化学療法計画書

2024年10月改訂

治療法名		mFOLFOX6+ビロイ			
コース数		1	コース目		
腫瘍種	胃癌 (GLDN18. 2陽性)				
患者氏名		♂	年齢		
開始予定日	患者ID	生年月日			
	部署	主治医	科名	医師名	
治療内容	Day	1	8	15	
	予定日	1/0		1/14	
ビロイ	800 ng/m ²	↓			
レボホリナート	200 ng/m ²	↓			
フルオロウラシル	400 ng/m ²	↓			
フルオロウラシル	2400 ng/m ²	↓			
オキサリプラチン	85 ng/m ²	↓			
デキサート	9. 9mg	↓			
ポララミン	1A	↓			
アセリオ	400mg	↓			
ファモチジン	1A	↓			
パロノセトロン	0. 75mg	↓			
アロカリス	235mg	↓			
オランザピン	5mg	↓↓↓↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓			

治療開始日	年	月	日	治療	間隔	2週毎	予定コース	コース
身長	150	cm	体重	50	kg	BSA	1. 433	m ²
eGFR	60	mL/min	eGFR/BSA	50	mL/m ² n			

Day0

夕方にオランザピン5mg内服

Day1-2

1) アセリオ	400mg	15分	投与開始基準 HER2陰性 1. 好中球1, 500以上 2. 血小板10万以上 3. Hb≥9 4. PS : 0-1 5. ALB≥2. 5 6. T-Bil≤ULN×1. 5 (肝転移≤ULN×3. 0) 7. AST/ALT≤ULN×2. 5 (肝転移≤ULN×5) 8. CCr≥30 9. PT/INR及びPTT≤ULN×1. 5	
ポララミン	1A			
デキサート	9. 9mg			
ファモチジン	1A			
↓				
2) パロノセトロン	0. 75mg	30分		
アロカリス	235mg			
↓				
3) 生理食塩液	50mL	10分		
↓				
4) 生理食塩液	500mL	総投与量 (mL) = 投与量 (mg) ÷ 2 (mg/mL) 投与速度 : 75mL/hで1時間→100mL/hで1時間 →150mL/h (終了まで維持) 6時間以内に終了 悪心/嘔吐, インフュージョンリアクション生じた時は 主治医と相談	オキサリプラチン減量基準 1. 好中球500未満 2. 血小板5万未満 3. G3以上の有害事象 ⇒オキサリプラチン100mg/m ² に減量 (2回目発現時 ; 85mg/m ² に減量)	
ビロイ	1140mg			
↓				
↓				
5) 生理食塩液	50mL	10分		
↓				
6) 5%ブドウ糖	250mL	2h	6) 5%ブドウ糖 500mL レボホリナート 275mg 2h	
オキサリプラチン	120mg			
↓				
7) 生理食塩液	50mL	15分	オキサリプラチンとレボホリナート 終了後につなぐ	
フルオロウラシル	570mg			
↓				
8) 生理食塩液	140mL	46h持続 (トレフューザー使用)		
フルオロウラシル	3400mg			

オランザピンはDay0の夕方から
デカドロンはDay2の朝から

化学療法計画書

2024年10月改訂

治療法名	mFOLFOX6+ビロイ		
コース数		コース目 (2回目以降)	
腫瘍種	胃癌 (CLDN18.2陽性)		
患者氏名		♂	年齢
開始予定日	患者ID	生年月日	
	部署	主治医	科名 医師名
治療内容	Day 1	8	15
	予定日	1/0 1/14	
ビロイ	400 mg/m ²	↓	
レボホリナート	200 mg/m ²	↓	
フルオロウラシル	400 mg/m ²	↓	
フルオロウラシル	2400 mg/m ²	↓	
オキサリプラチン	85 mg/m ²	↓	
デキサート	9.9ng	↓	
ポラミン	1A	↓	
アセリオ	400ng	↓	
ファモチジン	1A	↓	
パロノセトロン	0.75mg	↓	
アロカリス	235mg	↓	
オランザピン	5mg	↓↓↓↓	
デカドロン	8mg	↓↓↓	
治療開始日	年 月 日	治療 間隔	2週毎 予定コース コース
身長	150 cm	体重	50 kg BSA 1.433 m ²
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min

Day0

夕方にオランザピン5mg内服

Day1-2

1) アセリオ 400mg ポラミン 1A デキサート 9.9mg ファモチジン 1A	15分	投与開始基準 HER2陰性 1. 好中球1,500以上 2. 血小板10万以上 3. Hb≥9 4. PS: 0-1 5. ALB≥2.5 6. T-Bil≤ULN×1.5 (肝転移≤ULN×3.0) 7. AST/ALT≤ULN×2.5 (肝転移≤ULN×5) 8. CCr≥30 9. PT/INR及びPTT≤ULN×1.5
↓		
2) パロノセトロン 0.75mg アロカリス 235mg	30分	
3) 生理食塩液 50mL	10分	オキサリプラチン減量基準 1. 好中球500未満 2. 血小板5万未満 3. G3以上の有害事象 ⇒オキサリプラチン100mg/m ² に減量 (2回目発現時: 85mg/m ² に減量)
↓		
4) 生理食塩液 250mL ビロイ 570mg	総投与量 (mL) = 投与量 (mg) ÷ 2 (mg/mL) 投与速度: 100mL/hで1時間→150mL/hで1時間 →200mL/h (終了まで維持) 6時間以内に終了 悪心・嘔吐、インフュージョンリアクション生じた時は 主治医と相談	
↓		
5) 生理食塩液 50mL	10分	
↓		
6) 5%ブドウ糖 250mL オキサリプラチン 120mg	2h	6) 5%ブドウ糖 500mL レボホリナート 275mg
↓		
7) 生理食塩液 50mL フルオロウラシル 570mg	オキサリプラチンとレボホリナート 終了後につなぐ 15分	
↓		
8) 生理食塩液 140mL フルオロウラシル 3400mg	46h持続 (トレフューザー使用) オランザピンはDay0の夕から デカドロンはDay2の朝から	

化学療法計画書

2024年10月改訂

治療法名	MTX+5FU		
コース数		コース目	

腫瘍種 胃癌

患者氏名		♂	年齢	
------	--	---	----	--

開始予定日

患者ID		生年月日	
------	--	------	--

部署		主治医	科名	医師名
----	--	-----	----	-----

治療内容	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	15	22	29
	予定日	1/0							1/7		1/14		1/21		1/28	
メソトレキセート	100 mg/m ²	↓							↓		↓		↓		↓	
フルオロウラシル	600 mg/m ²	↓							↓		↓		↓		↓	
ロイコボリン	15mgx3	↓	↓	↓					↓	↓	↓		↓	↓	↓	
ダイアモックス	250mg	↓							↓		↓		↓		↓	
治療開始日					治療間隔			4週毎	予定コース数				コース			
身長	150	cm	体重	50	kg	BSA	1.433		m ²							
eGFR	60	mL/min	eGFR/BSA	50		mL/min										

Day 1、8、15、22

毎週投与翌日から翌々日

投与可否の基準	
<ul style="list-style-type: none"> ・ WBC>3,000, かつ好中球>2,000 ・ Plt>100,000 ・ 下痢なし ・ PS 0-2 	

- ロイコボリン 5A(15mg) 静注
- ロイコボリン 3錠(15mg) 経口

メソトレキセートの開始24時間後から6時間ごとに計5回

1) ソリタT3	500mL	3h
メイロン	40mL	

追加指示 (主治医に確認)

- MTX血中濃度測定
MTX投与24時間後にヘパ血5mL採血
1x10⁻⁶mol/L未満を確認
それ以上のときは48時間後に再検
再検でも1x10⁻⁶mol/L以上のとき
 ロイコリン 15mg 静注または経口
 メイロン 2A+生食100mL点滴



- 利尿剤投与
Day 1の尿量1000mL以下のとき、
 ダイアモックス 500mg+生食20mL静注

化学療法計画書

2024年5月 作成

治療法名	S-1/オプジーボ				
コース数		コース目			
腫瘍種	胃癌(切除不能/進行再発)				
患者氏名		♂	年齢		
患者ID		生年月日			
部署		主治医	科名	医師名	
開始予定日					
治療内容	Day	1	...	8	...
	治療予定日	1/0			15
					22
オプジーボ	360 mg	↓			
エスワン	60 mg/回	→(朝・夕食後)			
治療開始日		治療	間隔	3週毎	予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m2
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min		

インラインフィルターを使用	
Day1	
1) 生理食塩液	50mL 血管確保
↓	
2) 生理食塩液	50mL
オプジーボ	360mg 30分
↓	
3) 生理食塩液	50mL フラッシュ

Day 1(夕食後開始) ~Day15 (朝食後まで)		
Rp) S-1		BSA (m2)
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 ≥ 3000 好中球 ≥ 1500 AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200) Cr < 1.5 下痢、口内炎 ≤ G1 神経障害 ≤ G2
S-1クール内休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2 粘膜炎/口内炎 ≥ G2
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1 粘膜炎/口内炎 ≤ G1

S-1減量		
BSA (m2)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg

S-1減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはDay22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 50000 FN 下痢 ≥ G3以上

S-1は当日夕から

化学療法計画書

2025年7月改訂

治療法名	S-1/キイトルーダ/トラスツズマブ				
コース数		コース目			
腫瘍種	胃癌				
患者氏名		♂	年齢		
患者ID		生年月日			
部署		主治医	科名	医師名	
開始予定日					
治療内容	Day	1 8 15 22			
	治療予定日	1/0		1/14	1/21
キイトルーダ	200 mg	↓			
トラスツズマブ	6 mg/kg	↓			
エスワン	60 mg/回	↓			
		→(朝・夕食後)			
治療開始日		治療 間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	65 mL/min		

インラインフィルターを使用		
Day1		
1) 生理食塩液	50mL	10分
↓		
2) 生理食塩液	50mL	30分
キイトルーダ	200mg	
↓		
3) 生理食塩液	50mL	10分
↓		
4) 生理食塩液	250mL	30分
トラスツズマブ	300mg	
↓		
5) 生理食塩液	50mL	全開

インフュージョンリアクション
に注意

Day 1(夕食後開始) ~Day15 (朝食後まで)			
Rp) S-1		BSA (m ²)	
(20)	6錠/分2	>1.5	
(25)	4錠/分2	1.25-1.5	
(20)	4錠/分2	<1.25	

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球1,500以上 Hb\geq9 AST/ALT\leqULN\times2.5 T-Bil\leqULN\times1.5 Cr\leq1.5\timesULN PT/INR及びaPTT\leqULN\times1.5

S-1クール内休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球<1000 AST/ALT\geq100 Cr\geqULN\times1.5 下痢\geqG2

S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球\geq1000 Cr<ULN\times1.5 下痢\leqG1

トラスツズマブの休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> LVEF ベースラインから16%以上の低下 ベースラインから10%以上の低下かつ正常下限を下回る うっ血性心不全

心機能モニタリング12週毎

S-1は当日夕から

化学療法計画書

治療法名	S-1/トラスツズマブ				
コース数	コース目				
腫瘍種	胃癌				
患者氏名		♂	年齢		
患者ID		生年月日			
部署		主治医	科名	医師名	
開始予定日					
治療内容	Day	1 8 15 22			
	治療予定日	1/0 1/14 1/21			
トラスツズマブ エスワン	6 mg/kg 60 mg/回	↓ →(朝・夕食後)			
治療開始日		治療 間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min		

Day1	
1) 生理食塩液 50mL	血管確保
↓	
2) 生理食塩液 250mL トラスツズマブ 300mg	30分 インフュージョンリアクション に注意
↓	
3) 生理食塩液 50mL	フラッシュ

Day 1 (夕食後開始) ~ Day15 (朝食後まで)			
Rp) S-1		BSA (m ²)	
	(20)	6錠/分2	>1.5
	(25)	4錠/分2	1.25-1.5
	(20)	4錠/分2	<1.25

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
オキサリプラチン減量基準		
0	(-1)	(-2)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 ≥ 3000 好中球 ≥ 1500 ・ Plt ≥ 75000 AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200) Cr < 1.5 下痢、口内炎 ≤ G1 神経障害 ≤ G2 LVEF50%以上
S-1クール内休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 ・ Plt < 75000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2 ・ 粘膜炎/口内炎 ≥ G2
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 ・ Plt ≥ 75000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1 ・ 粘膜炎/口内炎 ≤ G1

S-1は当日夕から
心機能測定は12週間に1回を目安

化学療法計画書

2024年10月改訂

治療法名	s LV5FU2				
コース数		コース目			
腫瘍種	胃癌				
患者氏名		♂	年齢		
開始予定日		患者ID	生年月日		
		部署	主治医	科名	医師名
治療内容	Day 1	8			15
	予定日	1/0			1/14
レボホリナート	200 mg/m ²	↓			
フルオロウラシル	400 mg/m ²	↓			
フルオロウラシル	2400 mg/m ²	↓			
グラニセトロン	1mg	↓			
治療開始日	年 月 日	治療 間隔	2週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/m ²		

Day1-2	
1) グラニセトロン	1mg 30分
↓	
2) 5%ブドウ糖	500mL
レボホリナート	275ng 2h
↓	
3) 生理食塩液	50mL
フルオロウラシル	570ng 15分
↓	
4) 生理食塩液	140mL
フルオロウラシル	3400ng 46h持続(トレフューザー使用)

投与開始基準
1. 好中球1500以上
2. 血小板10万以上
3. 肝・腎機能値2倍以下
4. 心・肺機能異常なし
減量基準
1. 好中球 500未満
2. 血小板5万未満
フルオロウラシルを20%減量する

化学療法計画書

2024年10月改訂

治療法名		sLV5FU2/オプジーボ					
コース数		コース目					
腫瘍種		胃癌（切除不能/進行再発）					
患者氏名						♂	年齢
開始予定日		患者ID		生年月日			
		部署		主治医		科名	
						医師名	
治療内容		Day		1		8	
		予定日		1/0		1/14	
オプジーボ		240 mg		↓			
レボホリナート		200 mg/m ²		↓			
フルオロウラシル		400 mg/m ²		↓			
フルオロウラシル		2400 mg/m ²		↓			
グラニセトロン		1mg		↓			
治療開始日		年 月 日		治療 間隔		2週毎 予定コース	
身長		150 cm		体重		50 kg	
eGFR		60 mL/min		BSA		1.433 m ²	
		eGFR/BSA				50 mL/mi n	

Day1-2		
インラインフィルターを使用		
1) 生理食塩液	50mL	血管確保
↓		
2) 生理食塩液	50mL	30分
オプジーボ	240mg	
↓		
3) 生理食塩液	50mL	フラッシュ
↓		
4) グラニセトロン	1mg	30分
↓		
5) 5%ブドウ糖	500mL	2h
レボホリナート	275mg	
↓		
6) 生理食塩液	50mL	15分
フルオロウラシル	570mg	
↓		
7) 生理食塩液	140mL	46h持続（トレフューザー使用）
フルオロウラシル	3400mg	

投与開始基準
1. 好中球1500以上
2. 血小板7.5万以上
3. AST/ALT<2.5×ULN
4. T-Bil<1.5×ULN
5. Cr:1.2未満

減量基準
1. 好中球 500未満
2. 血小板5万未満
フルオロウラシルを20%減量

化学療法計画書

2025年10月作成

治療法名		sLV5FU2+トラスツズマブ						
コース数		コース目						
腫瘍種		胃癌						
患者氏名					♂	年齢		
患者ID		生年月日						
部署		主治医		科名		医師名		
開始予定日								
治療内容	Day	1	8	15	22	29	36	43
	予定日	1/0	1/7	1/21	1/28	2/11		
トラスツズマブ	6 mg/kg	↓		↓				
レボホリナート	200 mg/m ²	↓	↓		↓			
フルオロウラシル	400 mg/m ²	↓	↓		↓			
フルオロウラシル	2400 mg/m ²	↓	↓		↓			
グラニセトロン	1mg	↓	↓		↓			
治療開始日	年	月	日	治療	間隔	6週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²			
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min					

Day1		
1) 生理食塩液	50mL	10分
↓		
2) 生理食塩液	250mL	30分
トラスツズマブ	300mg	
↓		
3) グラニセトロン	1mg	30分
↓		
4) 5%ブドウ糖	500mL	2h
レボホリナート	275mg	
↓		
5) 生理食塩液	50mL	15分
フルオロウラシル	570mg	
↓		
6) 生理食塩液	140mL	46h持続 (トレフューザ [®] -使用)
フルオロウラシル	3400mg	

投与開始基準
1. 好中球1500以上
2. 血小板7.5万以上
3. AST/ALT<2.5×ULN
4. T-Bil<1.5×ULN
5. Cr:1.2未満
・LVEF50%以上

減量基準
1. 好中球 500未満
2. 血小板 5万未満
フルオロウラシルを20%減量

Day15、29		
1) グラニセトロン	1mg	30分
↓		
2) 5%ブドウ糖	500mL	2h
レボホリナート	275mg	
↓		
3) 生理食塩液	50mL	15分
フルオロウラシル	570mg	
↓		
4) 生理食塩液	140mL	46h持続 (トレフューザ [®] -使用)
フルオロウラシル	3400mg	

Day22		
1) 生理食塩液	50mL	10分
↓		
2) 生理食塩液	250mL	30分
トラスツズマブ	300mg	
↓ インフュージョンリアクションに注意		
3) 生理食塩液	50mL	10分

心機能測定は12週間に1回を目安

化学療法計画書

2024年8月改訂

治療法名		sLV5FU2+ビロイ						
コース数		コース目						
腫瘍種	胃癌 (GLDN18.2陽性)							
患者氏名					♂	年齢		
開始予定日	患者ID	生年月日						
	部署	主治医	科名	医師名				
治療内容	Day	1 8				15		
	予定日	1/0				1/14		
ビロイ	400 mg/m ²	↓						
レボホリナート	200 mg/m ²	↓						
フルオロウラシル	400 mg/m ²	↓						
フルオロウラシル	2400 mg/m ²	↓						
デキサート	9.9mg	↓						
ポララミン	1A	↓						
アセリオ	400mg	↓						
ファモチジン	1A	↓						
パロノセトロン	0.75mg	↓						
アロカリス	235mg	↓						
オランザピン	5mg	↓↓↓↓						
デカドロン	8mg	↓↓↓						
治療開始日	年	月	日	治療	間隔	2週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433	m ²		
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/m ² n					
Day0								

夕方にオランザピン5mg内服

Day1-2				
1) アセリオ	400mg	15分	投与開始基準 HER2陰性 1. 好中球1,500以上 2. 血小板10万以上 3. Hb≥9 4. PS : 0-1 5. ALB≥2.5 6. T-Bil≤ULN×1.5 (肝転移≤ULN×3.0) 7. AST/ALT≤ULN×2.5 (肝転移≤ULN×5) 8. Ccr≥30 9. PT/INR及びPTT≤ULN×1.5	
ポララミン	1A			
デキサート	9.9mg			
ファモチジン	1A			
↓				
2) パロノセトロン	0.75mg	30分		
アロカリス	235mg			
↓				
3) 生理食塩液	50mL	10分		
↓				
4) 生理食塩液	250mL	2h	総投与量 (mL) = 投与量 (mg) ÷ 2 (mg/mL) 投与速度 : 100mL/hで1時間→150mL/hで1時間 →200mL/h (終了まで維持) 6時間以内に終了 悪心/嘔吐, インフュージョンリアクション生じた時は 主治医と相談	
ビロイ	570mg			
↓				
↓				
5) 生理食塩液	50mL	10分		
↓				
6) 5%ブドウ糖	500mL	2h		
レボホリナート	275mg			
↓				
7) 生理食塩液	50mL	15分		
フルオロウラシル	570ng			
↓				
8) 生理食塩液	140mL	46h持続 (トレフューザー使用)		
オランザピンはDay0の夕方から				
デカドロンはDay2の朝から				

化学療法計画書

2025年7月改訂

治療法名	SOX130/キイトルーダ/トラスツズマブ				
コース数	1	コース目	初回		
腫瘍種	胃癌（切除不能/進行再発）				
患者氏名		性別	♂	年齢	
患者ID		生年月日			
部署		主治医		科名	医師名
治療内容	Day	1	8	15	22
	治療予定日	1/0		1/14	1/21
キイトルーダ	200 mg	↓			
トラスツズマブ	8 mg/kg	↓			
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓			
エスワン	60 mg/回				(朝・夕食後)
デキサート	6.6mg	↓			
パロノセトロン	0.75mg	↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓			
治療開始日		治療	間隔	3週毎	予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA			65 mL/min

インラインフィルターを使用	
Day1	
1) 生理食塩液	50mL 10分
↓	
2) 生理食塩液	50mL 30分
キイトルーダ	200mg
↓	
3) 生理食塩液	50mL 10分
↓	
4) 生理食塩液	250mL 90分
トラスツズマブ	400mg
↓	
5) パロノセトロン	0.75mg 30分
↓	
6) 5%ブドウ糖	250mL 2h
デキサート	6.6mg
オキサリプラチン	180mg
↓	(温電法) 穿刺部位の十分な観察
7) 生理食塩液	50mL 全開

インフュージョンリアクション
に注意

Day 1(夕食後開始) ~Day15 (朝食後まで)		
Rp) S-1		BSA (m ²)
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

S-1減量			
BSA (m ²)	(-1)	(-2)	
>1.5	100mg	80mg	
1.25-1.5	80mg	60mg	
<1.25	60mg	50mg	
オキサリプラチン減量基準			
	(-1)	(-2)	(-3)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²	50mg/m ²

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 1,500以上 Hb ≥ 9 AST/ALT ≤ ULN × 2.5 Cr ≤ 1.5 × ULN PT/INR及びaPTT ≤ ULN × 1.5 HER2過剰発現あり PD-L1 CPS ≥ 1 LVEF55%以上

オキサリプラチン減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 500未満 血小板5万未満 FN G3以上の有害事象⇒オキサリプラチン100mg/m²に減量 (2回目発現時: 75mg/m²に減量→3回目: 50mg/m²に減量)

S-1クール休業基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2

S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1

トラスツズマブの休業基準
<ul style="list-style-type: none"> LVEF ベースラインから16%以上の低下 ベースラインから10%以上の低下かつ正常下限を下回る うっ血性心不全

心機能モニタリング12週毎
S-1は当日夕から
デカドロンはDay2の朝から

化学療法計画書

2025年7月改訂

治療法名	SOX130/キイトルーダ/トラスツズマブ		
コース数		コース目	(2コース目以降)
腫瘍種	胃癌 (切除不能/進行再発)		
患者氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	
部署		主治医	科名 医師名
開始予定日			
治療内容	Day 1	8	15
	治療予定日	1/0	1/14 1/21
キイトルーダ	200 mg	↓	
トラスツズマブ	6 mg/kg	↓	
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓	
エスワン	60 mg/回	→ (朝・夕食後)	
デキサート	6.6mg	↓	
パロノセトロン	0.75mg	↓	
デカドロン	8mg	↓↓↓	
治療開始日		治療 間隔	3週毎 予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg BSA 1.433 m ²
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	65 mL/min

インラインフィルターを使用

Day1	
1) 生理食塩液	50mL 10分
↓	
2) 生理食塩液	50mL 30分
キイトルーダ	200mg
↓	
3) 生理食塩液	50mL 10分
↓	
4) 生理食塩液	250mL 30分
トラスツズマブ	300mg
↓	
5) パロノセトロン	0.75mg 30分
↓	
6) 5%ブドウ糖	250mL
デキサート	6.6mg 2h
オキサリプラチン	180mg (温罨法) 穿刺部位の十分な観察
↓	
7) 生理食塩液	50mL 全開

インフュージョンリアクションに注意

Day 1 (夕食後開始) ~ Day15 (朝食後まで)		
Rp) S-1		BSA (m ²)
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg

オキサリプラチン減量基準			
0	(-1)	(-2)	(-3)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²	50mg/m ²

投与開始基準
・好中球1,500以上 ・血小板10万以上
・Hb ≥ 9 ・PS : 0-1
・AST/ALT ≤ ULN × 2.5 ・T-Bil ≤ ULN × 1.5
・Cr ≤ 1.5 × ULN ・ALB ≥ 2.5
・PT/INR及びaPTT ≤ ULN × 1.5

オキサリプラチン減量基準
・好中球 500未満
・血小板5万未満
・FN
・G3以上の有害事象⇒オキサリプラチン100mg/m ² に減量 (2回目発現時: 75mg/m ² に減量→3回目: 50mg/m ² に減量)

S-1クール休業基準
・好中球 < 1000 ・Plt < 75000
・AST/ALT ≥ 100
・Cr ≥ ULN × 1.5
・下痢 ≥ G2 ・粘膜炎/口内炎 ≥ G2

S-1クール内再開基準
・好中球 ≥ 1000 ・Plt ≥ 75000
・Cr < ULN × 1.5
・下痢 ≤ G1 ・粘膜炎/口内炎 ≤ G1

トラスツズマブの休業基準
・LVEF
ベースラインから16%以上の低下
ベースラインから10%以上の低下かつ正常下限を下回る
・うっ血性心不全

心機能モニタリング12週毎

S-1は当日夕から
デカドロンはDay2の朝から

化学療法計画書

2025年7月改訂

治療法名		SOX130/キイトルーダ/トラスツズマブ (アレルギー)			
コース数		コース目			
腫瘍種		胃癌 (切除不能/進行再発)			
患者氏名		♂		年齢	
患者ID		生年月日			
部署		主治医		科名 医師名	
開始予定日					
治療内容		Day 1 8 15 22			
治療予定日		1/0		1/14 1/21	
キイトルーダ 200 mg		↓			
トラスツズマブ 6 mg/kg		↓			
オキサリプラチン 130 mg/m ²		↓			
エスワン 60 mg/回		→ (朝・夕食後)			
デキサート 13.2 mg		↓			
パロノセトロン 0.75mg		↓			
ファモチジン 1A		↓ ↓ ↓			
デカドロン 8mg		↓ ↓ ↓			
レスタミン 50mg		↓			
治療開始日		治療 間隔		3週毎 予定コース	
身長 150 cm		体重 50 kg		BSA 1.433 m ²	
eGFR 79 mL/min		eGFR/BSA		65 mL/min	

インラインフィルターを使用

Day 1		
1) 生理食塩液 50mL	10分	
↓		
2) 生理食塩液 50mL	30分	
キイトルーダ 200mg		
↓		
3) 生理食塩液 50mL	10分	
↓		
4) 生理食塩液 250mL	30分	インフュージョンリアクションに注意
トラスツズマブ 300mg		
↓		
5) パロノセトロン 0.75mg	30分	5) 開始と共にレスタミン内服
デキサート 6.6mg		
ファモチジン 1A		
↓		
6) 5%ブドウ糖 250mL	2h	
デキサート 6.6mg		
オキサリプラチン 180mg		(温罨法) 穿刺部位の十分な観察
↓		
7) 生理食塩液 50mL	全開	

Day 1 (夕食後開始) ~ Day 15 (朝食後まで)		
Rp) S-1	BSA (m ²)	
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg

オキサリプラチン減量基準			
0	(-1)	(-2)	(-3)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²	50mg/m ²

投与開始基準	
・好中球 1,500以上	・血小板 10万以上
・Hb ≥ 9	・PS : 0-1
・AST/ALT ≤ ULN × 2.5	・T-Bil ≤ ULN × 1.5
・Cr ≤ 1.5 × ULN	・ALB ≥ 2.5
・PT/INR及びaPTT ≤ ULN × 1.5	

オキサリプラチン減量基準	
・好中球 500未満	
・血小板 5万未満	
・FN	
・G3以上の有害事象⇒オキサリプラチン100mg/m ² に減量	
(2回目発現時 ; 75mg/m ² に減量→3回目 ; 50mg/m ² に減量)	

S-1クール休業基準	
・好中球 < 1000	・Plt < 75000
・AST/ALT ≥ 100	
・Cr ≥ ULN × 1.5	
・下痢 ≥ G2	・粘膜炎/口内炎 ≥ G2

S-1クール再開基準	
・好中球 ≥ 1000	・Plt ≥ 75000
・Cr < ULN × 1.5	
・下痢 ≤ G1	・粘膜炎/口内炎 ≤ G1

トラスツズマブの休業基準	
・LVEF	
ベースラインから16%以上の低下	
ベースラインから10%以上の低下かつ正常下限を下回る	
・うっ血性心不全	

心機能モニタリング12週毎

S-1は当日夕から
デカドロンはDay2の朝から

化学療法計画書

2024年10月改訂

治療法名	SOX130/トラスツズマブ		
コース数	1	コース目	
腫瘍種	胃癌		
患者氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	
部署		主治医	科名
			医師名

開始予定日

治療内容	Day 1 8 15 22
	治療予定日 1/0 1/14 1/21

トラスツズマブ	8 mg/kg	↓	→(朝・夕食後)
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓	
エスワン	60 mg/回		
デキサート	6.6mg	↓	
パロノセトロン	0.75mg	↓	
デカドロン	8mg	↓↓↓	

治療開始日		治療 間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min		

Day1	
1) 生理食塩液	50mL 血管確保
↓	
2) 生理食塩液	250mL
トラスツズマブ	400mg 90分
↓	
3) パロノセトロン	0.75mg 30分
↓	
4) 5%ブドウ糖	250mL
デキサート	6.6mg 2h
オキサリプラチン	180mg (温罨法) 穿刺部位の十分な観察
↓	
5) 生理食塩液	50mL フラッシュ

投与開始基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 ≥ 3000 好中球 ≥ 1500 ・ Plt ≥ 75000 AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200) Cr < 1.5 下痢、口内炎 ≤ G1 神経障害 ≤ G2
S-1クール内休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> HER2過剰発現あり LVEF50%以上
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 < 1000 ・ Plt < 75000 AST/ALT ≥ 100 Cr ≥ ULN × 1.5 下痢 ≥ G2 ・ 粘膜炎/口内炎 ≥ G2
S-1クール内再開基準
<ul style="list-style-type: none"> 好中球 ≥ 1000 ・ Plt ≥ 75000 Cr < ULN × 1.5 下痢 ≤ G1 ・ 粘膜炎/口内炎 ≤ G1

Day 1(夕食後開始) ~ Day15 (朝食後まで)			
Rp) S-1		BSA (m ²)	
	(20)	6錠/分2	>1.5
	(25)	4錠/分2	1.25-1.5
	(20)	4錠/分2	<1.25

S-1減量		
BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg
オキサリプラチン減量基準		
	(-1)	(-2)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²

デカドロンはDay2の朝から
S-1は当日夕から

オキサリプラチン減量基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはDay22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 75000 またはDay22に75000以上100000未満の場合 FN
S-1休薬基準
<ul style="list-style-type: none"> 白血球 < 1000 好中球 < 500 (またはDay22にコース開始基準を満たさない場合) 血小板 < 50000 FN 下痢 ≥ G3以上

化学療法計画書

2024年10月改訂

治療法名	SOX130/トラスツズマブ				
コース数		コース目 (2コース目以降)			
腫瘍種	胃癌				
患者氏名		♂	年齢		
患者ID		生年月日			
部署		主治医	科名	医師名	
開始予定日					
治療内容	Day	1	8	15	22
	治療予定日	1/0		1/14	1/21
トラスツズマブ	6 mg/kg	↓			
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓			
エスワン	60 mg/回	→(朝・夕食後)			
デキサート	6.6mg	↓			
パロノセトロン	0.75mg	↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓			
治療開始日		治療 間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min		

Day1

- 1) 生理食塩液 50mL 血管確保
- ↓
- 2) 生理食塩液 250mL
トラスツズマブ 300mg 30分 **インフュージョンリアクションに注意**
- ↓
- 3) パロノセトロン 0.75mg 30分
- ↓
- 4) 5%ブドウ糖 250mL
デキサート 6.6mg 2h
オキサリプラチン 180mg (温罨法) 穿刺部位の十分な観察
- ↓
- 5) 生理食塩液 50mL フラッシュ

投与開始基準

- ・白血球 ≥ 3000
- ・好中球 ≥ 1500 ・Plt ≥ 75000
- ・AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200)
- ・Cr < 1.5
- ・下痢、口内炎 ≤ G1
- ・神経障害 ≤ G2
- ・HER2過剰発現あり
- ・LVEF50%以上

S-1クール休業基準

- ・好中球 < 1000 ・Plt < 75000
- ・AST/ALT ≥ 100
- ・Cr ≥ ULN × 1.5
- ・下痢 ≥ G2 ・粘膜炎/口内炎 ≥ G2

S-1クール内再開基準

- ・好中球 ≥ 1000 ・Plt ≥ 75000
- ・Cr < ULN × 1.5
- ・下痢 ≤ G1 ・粘膜炎/口内炎 ≤ G1

Day 1(夕食後開始) ~ Day15 (朝食後まで)

Rp) S-1		BSA (m ²)
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

S-1減量

BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg

オキサリプラチン減量基準

0	(-1)	(-2)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²

デカドロンはDay2の朝から
S-1は当日夕から
心機能測定は12週間に1回を目安

オキサリプラチン減量基準

- ・白血球 < 1000
- ・好中球 < 500 (またはDay22にコース開始基準を満たさない場合)
- ・血小板 < 75000
またはDay22に75000以上100000未満の場合
- ・FN

S-1休業基準

- ・白血球 < 1000
- ・好中球 < 500 (またはDay22にコース開始基準を満たさない場合)
- ・血小板 < 50000
- ・FN
- ・下痢 ≥ G3以上

化学療法計画書

2024年10月改訂

治療法名	SOX130/トラスツズマブ(アレルギー)				
コース数		コース目			
腫瘍種	胃癌				
患者氏名		♂	年齢		
患者ID		生年月日			
部署		主治医	科名	医師名	
開始予定日					
治療内容	Day	1 8 15 22			
	治療予定日	1/0	1/14	1/21	
トラスツズマブ	6 mg/kg	↓			
オキサリプラチン	130 mg/m ²	↓			
エスワン	60 mg/回	→(朝・夕食後)			
デキサート	13.2 mg	↓			
パロノセトロン	0.75mg	↓			
ファモチジン	1A				
デカドロン	8mg	↓↓↓			
レスタミン	50mg	↓			
治療開始日		治療 間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min		

Day1

- 1) 生理食塩液 50mL 血管確保
↓
- 2) 生理食塩液 250mL
トラスツズマブ 300mg 30分 **インフュージョンリアクションに注意**
↓
- 3) パロノセトロン 0.75mg 30分
デキサート 6.6mg
ファモチジン 1A 3) 開始と共にレスタミン内服
- 4) 5%ブドウ糖 250mL
デキサート 6.6mg
オキサリプラチン 180mg 2h
↓ (温罨法) 穿刺部位の十分な観察
- 5) 生理食塩液 50mL フラッシュ

投与開始基準

- ・白血球 ≥ 3000
- ・好中球 ≥ 1500 ・Plt ≥ 75000
- ・AST/ALT ≤ 100 (肝転移 ≤ 200)
- ・Cr < 1.5
- ・下痢、口内炎 ≤ G1
- ・神経障害 ≤ G2
- ・HER2過剰発現あり
- ・LVEF50%以上

S-1クール内休薬基準

- ・好中球 < 1000 ・Plt < 75000
- ・AST/ALT ≥ 100
- ・Cr ≥ ULN × 1.5
- ・下痢 ≥ G2 ・粘膜炎/口内炎 ≥ G2

S-1クール内再開基準

- ・好中球 ≥ 1000 ・Plt ≥ 75000
- ・Cr < ULN × 1.5
- ・下痢 ≤ G1 ・粘膜炎/口内炎 ≤ G1

Day 1(夕食後開始) ~ Day15 (朝食後まで)

Rp) S-1		BSA (m ²)
(20)	6錠/分2	>1.5
(25)	4錠/分2	1.25-1.5
(20)	4錠/分2	<1.25

S-1減量

BSA (m ²)	(-1)	(-2)
>1.5	100mg	80mg
1.25-1.5	80mg	60mg
<1.25	60mg	50mg

オキサリプラチン減量基準

0	(-1)	(-2)
130mg/m ²	100mg/m ²	75mg/m ²

デカドロンはDay2の朝から
S-1は当日夕から

オキサリプラチン減量基準

- ・白血球 < 1000
- ・好中球 < 500 (またはDay22にコース開始基準を満たさない場合)
- ・血小板 < 75000
またはDay22に75000以上100000未満の場合
- ・FN

S-1休薬基準

- ・白血球 < 1000
- ・好中球 < 500 (またはDay22にコース開始基準を満たさない場合)
- ・血小板 < 50000
- ・FN
- ・下痢 ≥ G3以上

化学療法計画書

治療法名		アブラキサン																
コース数		コース目																
腫瘍種		非小細胞肺癌 胃癌																
患者氏名							♂		年齢									
患者ID							生年月日											
部署							主治医		科名		医師名							
開始予定日																		
治療内容		Day	1	2	3	4	5	6	7	8	...	15	...	22	...	29	...	
		予定日	1/0							1/7							1/21	1/28
アブラキサン 100 mg/m ²			↓							↓								↓
治療開始日				治療間隔		4 週毎		予定コース数		コース								
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²													
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min															

投与開始基準 (Day1)	
好中球 ≥ 1500	
Plt ≥ 10万 Hb ≥ 9.0	
AST/ALT ≤ ULN × 2.5	
T-Bil ≤ 1.5、Cr ≤ 1.5	
(T-Bil高値の場合減量考慮)	
末梢神経障害 ≤ G2	

・末梢神経障害 ≥ G3 →アブラキサンのみ1段階減量

減量目安	アブラキサン
通常量	100mg/m ²
1段階減量	80mg/m ²
2段階減量	60mg/m ²

Day 1、8、15

投与可否の基準 (Day 8、15)
・好中球 ≥ 1000
・Plt > 50,000
・末梢神経障害 ≤ G2

インラインフィルターを使用しない

- 1) 生理食塩液 50mL 血管確保
↓
- 2) 生理食塩液 50mL 30分
アブラキサン 140mg 液量は (mg ÷ 5) mL
↓
- 3) 生理食塩液 50mL フラッシュ

アブラキサンの調製方法
生食50mLのボトルを空にする
抜いた生食はアブラキサンの溶解に用いる
1V=100mgを生食20mLで溶解し、
5mg/mL溶液とする
そこから必要量をとって、
空になった生食ボトルに戻す

化学療法計画書

治療法名	アブラキサン/サイラムザ		
コース数		コース目	
腫瘍種	胃癌		
患者氏名		♂	年齢
患者ID		生年月日	
部署		主治医	科名
		医師名	

開始予定日

治療内容	Day	1	...	8	...	15	...	22	...	29
	予定日	1/0		1/7		1/14		1/21		1/28
アブラキサン	100 mg/m ²	↓		↓		↓				↓
サイラムザ	8 mg/kg	↓		↓		↓				↓
レスタミン	5錠	↓		↓		↓				↓
治療開始日										
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²	治療間隔	4週毎	予定コース数		コース
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA		50 mL/min						

投与開始基準
好中球 ≥ 1500
Plt ≥ 10万 Hb ≥ 9.0
AST/ALT ≤ ULN × 2.5
T-Bil ≤ 1.5、Cr ≤ 1.5
(T-Bil高値の場合減量考慮)
末梢神経障害 ≤ G2

投与可否基準 (Day8、15)
・好中球 ≥ 1000
・Plt > 50,000
・末梢神経障害 ≤ G2
サイラムザの投与基準
尿蛋白 : 100mg/dl 以下
サイラムザの有害事象 G2未済

サイラムザの投与基準
尿蛋白 : 100mg/dl 以下
サイラムザの有害事象 G2未済

Day 8	
インラインフィルターを使用しない	
1) 生理食塩液	50mL 血管確保
↓	
2) 生理食塩液	50mL 30分
アブラキサン	140mg 液量は (mg ÷ 5) mL
↓	
3) 生理食塩液	50mL フラッシュ

Day 1、15	
インラインフィルター使用	
1) 生理食塩液	50mL 30分
↓	
2) 生理食塩液	250mL 1回目は60分
サイラムザ	400mg 忍容性あれば
↓	
(全量 250mL)	
3) 生理食塩液	50mL 全開で
↓	
4) 生理食塩液	50mL ルート確保
↓	
インラインフィルターを使用しない	
5) 生理食塩液	50mL 30分
アブラキサン	140mg 液量は (mg ÷ 5) mL
↓	
6) 生理食塩液	50mL フラッシュ

インフュージョンリアクション出現時
⇒一旦中止
G1, 2の場合は対症療法後状況に応じて減速も考慮
G3, 4 は再投与しない

尿蛋白
100mg/dl 以下でRAM投与
300mg/dl 中止
減量 8→6→5mg/kg

高血圧
G3未済 無症候性の場合⇒サイラムザ継続で降圧剤開始
症状あり⇒症状消失までサイラムザ中断で降圧薬継続
コントロール不良でサイラムザを2回中断するとき6mg/kg
更に延期が必要な場合、5mg/kgに減量
G3 無症状⇒強力な降圧剤を併用しサイラムザ継続
2週間こえてG3の場合降圧剤は継続、サイラムザ中止
2回以上中断時は6mg/kg、更に投与延期5mg/kg

・末梢神経障害 ≥ G3
→アブラキサンのみ1段階減量

減量基準	アブラキサン
通常量	100mg/m ²
1段階減量	80mg/m ²
2段階減量	60mg/m ²

アブラキサンの調製方法
生食50mLのボトルを空にする
抜いた生食はアブラキサンの溶解に用いる
1V=100mgを生食20mLで溶解し、
5mg/mL溶液とする
そこから必要量をとって、
空になった生食ボトルに戻す

化学療法計画書

治療法名	イリノテカン/サイラムザbiweekly			
コース数		コース目		
腫瘍種	胃癌			
患者氏名		♂	年齢	
患者ID		生年月日		
部署		主治医	科名	医師名

開始予定日

治療内容	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	15	22	29
	予定日	1/0							1/7		1/14					1/28
イリノテカン	150 mg/m ²	↓									↓					
サイラムザ	8 mg/kg	↓									↓					
パロノセトロン	0.75mg	↓									↓					
デキサート	6.6mg	↓									↓					
デカドロン	8mg	↓↓↓									↓↓↓					
レスタミン	5錠	↓									↓					
治療開始日											予定コース数					コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²											
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min													

投与開始基準 (IRI)
・ WBC>3000, かつ好中球>2000
・ Plt>10万
・ 下痢なし
・ 肝・腎機能値 2 倍以下
・ T-Bil ≥ 2.1 禁忌or (減量考慮50%量)

インフュージョンリアクション出現時 (RAM)
⇒一旦中止
G1, 2の場合は対症療法, 減速も考慮
G3, 4 は再投与しない
尿蛋白
100mg/dl 以下でRAM投与
300mg/dl 中止
減量 8→6→5mg/kg

高血圧
G3未満
無症候性の場合⇒RAM継続で降圧剤開始
症状あり⇒症状消失までRAM中断で降圧薬継続
コントロール不良でRAMを2回中断するとき6mg/kg
更に延期が必要な場合、5mg/kgに減量
G3
無症状⇒強力な降圧剤を併用しRAM継続
2週間こえてG3の場合降圧剤は継続、RAM中止
2回以上中断時は6mg/kg、更に投与延期5mg/kg

Day1	
インラインフィルターを使用	
1) 生理食塩液	50mL 30分
↓	
2) 生理食塩液	250mL 1回目は60分
サイラムザ	400mg 忍容性あれば
(全量250mL) 以後30分で	
↓	
3) 生理食塩液	50mL フラッシュ
↓	
4) パロノセトロン	0.75mg
デキサート	6.6mg 30分
↓	
5) 5%ブドウ糖	500mL
イリノテカン	210mg 90分
↓	
6) 生理食塩液	50mL フラッシュ

デカドロンはDay2の朝から

化学療法計画書

治療法名	エンハーツ			
コース数		コース目		
腫瘍種	胃癌 (HER2陽性)			
患者氏名		♂	年齢	
患者ID		生年月日		
部署		主治医	科名	医師名
開始予定日				
治療内容	Day	1 8 15		22 29
	予定日	1/0		1/21 1/28
エンハーツ	6.4 mg/kg	↓		↓
パロノセトロン	0.75mg	↓		↓
デキサート	6.6mg	↓		↓
デカドロン	8mg	↓↓↓		
治療開始日		治療間隔	3週毎	予定コース数
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA 1.433 m ²
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min	コース

Day 1	
インラインフィルターを使用	
1) パロノセトロン	0.75mg 30分
デキサート	6.6mg
↓	
2) 5%ブドウ糖	100mL
エンハーツ	320mg
↓	
3) 生理食塩液	50mL フラッシュ

・ 1Vの溶解は水5mL
 ・ 調製後遮光カバー装着
インフュージョンリアクションに注意
 初回90分
 2回目以降
 初回の忍容性良好なら30分で

休薬・中止基準 (好中球)	
G3	G2まで休薬 回復後1段階減量または同一用量で再開
G4	G2以下まで休薬 回復後1段階減量で再開
休薬・中止基準 (発熱好中球減少症)	
	回復するまで休薬 回復後1段階減量で
休薬・中止基準 (血小板)	
G3	G1以下まで休薬 7日以内に回復は同一用量で 7日を超えて回復した場合は1段階減量で
G4	G1以下に回復後1段階減量して再開

減量の目安	
通常	6.4mg/kg
1段階減量	5.4mg/kg
2段階減量	4.4mg/kg
3段階減量	投与中止

心機能モニタリング (心エコー等) 4サイクル毎

デカドロンはDay2の朝から

★間質性肺炎に留意 (CT 問診 酸素飽和度 など)

投与開始基準 (選択基準)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ LVEF50%以上 ・ 好中球数 ≥ 1500 血小板数 ≥ 10万 ・ Hb ≥ 9.0, Ccr ≥ 30, T-Bil ≤ 1.5 × ULN ・ AST/ALT ≤ 3.0 × ULN 	
休薬・中止基準 (間質性肺炎)	
G1	原則として再開しない 全ての所見が消失、かつ有益性が危険性を上回ると判断した場合のみ1段階減量して使用することは可能 再発時は中止
G2以上	中止
休薬・中止基準 (LVEF)	
40% ≤ LVEF ≤ 45%	ベースから10%未満低下 → 休薬、3週間以内に再測定を行う
	ベースから10%以上低下 → 休薬、3週間以内に再測定を行う 絶対値の変化 < 10%に回復しない場合中止
LVEF < 40%	→ 休薬、3週間以内に再測定を行う LVEF < 40%の場合中止
症候性うっ血心不全 → 中止	
休薬・中止基準 (T-Bil) (AST/ALT)	
G2	G1以下まで休薬 7日以内に回復は同一用量で 7日を超えて回復した場合は1段階減量で
G3	G1以下まで休薬 7日以内に回復は1段階減量で 7日を超えて回復した場合は投与中止
G4	中止
休薬・中止基準 (下痢)	
G3	G1以下まで休薬 3日以内に回復は同一用量で 3日を超えて回復した場合は1段階減量で
G4	中止

化学療法計画書

2024年8月作成

治療法名	カペシタビン/キイトルーダ		
コース数		コース目	
腫瘍種	胃癌 (切除不能/進行再発)		
患者氏名		♂	年齢
開始予定日	患者ID	生年月日	
	部署	主治医	科名
			医師名
治療内容	Day	1 8 15 22	
	治療予定日	1/0	1/14 1/21
キイトルーダ	200 mg	↓	
カペシタビン	2000 mg/m ²	→ (朝・夕食後)	
ピリドキサル	60mg	→ (朝・夕食後)	
治療開始日		治療間隔	3週毎 予定コース
身長	150 cm	体重	50 kg
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min
		BSA	1.433 m ²
			コース

インラインフィルターを使用	
Day1	
1) 生理食塩液	50mL 血管確保
↓	
2) 生理食塩液	50mL
キイトルーダ	200mg 30分
↓	
3) 生理食塩液	50mL フラッシュ

投与開始基準
1. 好中球1,500以上 2. 血小板7.5万以上
3. 脳転移のない患者 4. PS 0-1
5. AST/ALT<100 6. T-Bil<2
7. Cr<1.5×ULN
カペシタビン (CCr<30未満は禁忌、30≤CCr≤50は75%量)

カペシタビン投与量	
体表面積	1回用量
1. 36m ² 未満	1200mg (4錠)
1. 36m ² ~1. 66m ² 未満	1500mg (5錠)
1. 66m ² ~1. 96m ² 未満	1800mg (6錠)
1. 96m ² 以上	2100mg (7錠)
カペシタビン減量時投与量	
体表面積	1回用量
	減量1段階 減量2段階
1. 41m ² 未満	900mg 600mg
1. 41m ² ~1. 51m ² 未満	1200mg 900mg
1. 51m ² ~1. 81m ² 未満	1500mg 1200mg
1. 81m ² ~2. 11m ² 未満	
2. 11m ² 以上	

カペシタビンの休薬・減量基準
・ G2の副作用⇒G0-1まで休薬 (再開時同一用量)
2回目:減量1段階 3回目:減量2段階で再開
・ G3の副作用⇒G0-1まで休薬→減量1段階で再開
2回目:減量2段階で再開

カペシタビン、ピリドキサルはDay1の夕から

化学療法計画書

2025年7月作成

治療法名		カペシタビン/キイトルーダ/トラスツズマブ			
コース数		コース目			
腫瘍種	胃癌（切除不能/進行再発）				
患者名				♂	年齢
患者ID				生年月日	
部署			主治医	科名	医師名
開始予定日					
治療内容	Day	1	8	15	22
	予定日	1/0		1/14	1/21 1/28
キイトルーダ	200 mg	↓			
トラスツズマブ	6 mg/kg	↓			
カペシタビン	2000 mg/m ²	→ (朝・夕食後)			
ピリドキサル	60mg				
治療開始日		治療間隔	4週毎	予定コース数	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²
eGFR	79 mL/min	eGFR/BSA	65 mL/min		

投与開始基準	
・ 好中球1,500以上	
・ 血小板10万以上	
・ Hb \geq 9	・ PS : 0-1
・ AST/ALT \leq ULN \times 2.5	
・ T-Bil \leq ULN \times 1.5	
・ Cr \leq 1.5 \times ULN	・ ALB \geq 2.5
・ PT/INR及びaPTT \leq ULN \times 1.5	
カペシタビン (CCr < 30未満は禁忌、30 \leq CCr \leq 50は75%量)	

カペシタビンの休薬・減量基準	
・ G2の副作用 \Rightarrow G0-1まで休薬（再開時同一用量）	2回目；減量1段階 3回目；減量2段階で再開
・ G3の副作用 \Rightarrow G0-1まで休薬 \rightarrow 減量1段階で再開	2回目；減量2段階で再開

トラスツズマブの休薬基準	
・ LVEF	ベースラインから16%以上の低下
	ベースラインから10%以上の低下かつ正常下限を下回る
・ うっ血性心不全	

インラインフィルターを使用		
Day1		
1) 生理食塩液	50mL	10分
↓		
2) 生理食塩液	50mL	30分
キイトルーダ	200mg	
↓		
3) 生理食塩液	50mL	10分
↓		
4) 生理食塩液	250mL	30分
トラスツズマブ	300mg	
↓		
5) 生理食塩液	50mL	全開

インフュージョンリアクションに注意

参考：カペシタビン投与量		
体表面積	1回用量	
1.36m ² 未満	1200mg（4錠）	
1.36m ² ～1.66m ² 未満	1500mg（5錠）	
1.66m ² ～1.96m ² 未満	1800mg（6錠）	
1.96m ² 以上	2100mg（7錠）	
カペシタビン減量時投与量		
体表面積	1回用量	
	減量1段階	減量2段階
1.41m ² 未満	900mg	600mg
1.41m ² ～1.51m ² 未満	1200mg	900mg
1.51m ² ～1.81m ² 未満		
1.81m ² ～2.11m ² 未満	1500mg	1200mg
2.11m ² 以上		

心機能モニタリング12週毎

カペシタビン、ピリドキサルはDay1の夕から

化学療法計画書

2024年8月作成

治療法名		カペシタビン+ビロイ			
コース数		コース目			
腫瘍種	胃癌 (CLDN18.2陽性)				
患者氏名		♂	年齢		
患者ID		生年月日			
部署		主治医	科名	医師名	
開始予定日					
治療内容	Day	1	8	15	22
	治療予定日	1/0		1/14	1/21
ビロイ	600 mg/m ²	↓			
カペシタビン	2000 mg/m ²	→ (朝・夕食後)			
デキサート	9.9mg	↓			
ポララミン	1 A	↓			
アセリオ	400mg	↓			
ファモチジン	1 A	↓			
パロノセトロン	0.75mg	↓			
アロカリス	235mg	↓			
オランザピン	5mg	↓↓↓↓			
デカドロン	8mg	↓↓↓			
ピリドキサル	60mg	→ (朝・夕食後)			
治療開始日		治療 間隔	3週毎	予定コース	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min		

Day0

夕方にオランザピン5mg内服

Day1

1) アセリオ	400mg	15分
ポララミン	1 A	
デキサート	9.9mg	
ファモチジン	1 A	

↓

2) パロノセトロン	0.75mg	30分
アロカリス	235mg	

↓

3) 生理食塩液	50mL	10分
----------	------	-----

↓

4) 生理食塩液	500mL	総投与量 (mL) = 投与量 (mg) ÷ 2 (mg/mL)
ビロイ	850mg	投与速度: 100mL/hで1時間→150mL/hで1時間

↓

→200mL/h (終了まで維持) 6時間以内に終了
悪心嘔吐、インフュージョンリアクション生じた時は
主治医と相談

↓

5) 生理食塩液	50mL	フラッシュ
----------	------	-------

投与開始基準

HER2陰性
1. 好中球1,500以上 2. 血小板10万以上
3. Hb≥9 4. PS: 0-1
5. ALB≥2.5 6. T-Bil≤ULN×1.5 (肝転移≤ULN×3.0)
7. AST/ALT≤ULN×2.5 (肝転移≤ULN×5) 8. CCr≥30
9. PT/INR及びPTT≤ULN×1.5
カペシタビン (CCr<30は禁忌、30≤CCr≤50は75%量)

カペシタビンの休薬・減量基準

・ G2の副作用⇒G0-1まで休薬 (再開時同一用量)
2回目: 減量1段階 3回目: 減量2段階で再開
・ G3の副作用⇒G0-1まで休薬→減量1段階で再開
2回目: 減量2段階で再開

カペシタビン 投与量

体表面積	1回用量
1. 36m ² 未満	1200mg (4錠)
1. 36m ² ~1. 66m ² 未満	1500mg (5錠)
1. 66m ² ~1. 96m ² 未満	1800mg (6錠)
1. 96m ² 以上	2100mg (7錠)

カペシタビン減量時投与量

体表面積	1回用量	
	減量1段階	減量2段階
1. 41m ² 未満	900mg	600mg
1. 41m ² ~1. 51m ² 未満	1200mg	
1. 51m ² ~1. 81m ² 未満	1500mg	900mg
1. 81m ² ~2. 11m ² 未満		1200mg
2. 11m ² 以上		1200mg

オランザピンはDay0の夕から
カペシタビン、ピリドキサルはDay1の夕から
デカドロンはDay2の朝から

化学療法計画書

治療法名		サイラムザ									
コース数		コース目									
腫瘍種		胃癌									
患者氏名					♂	年齢					
患者ID		生年月日									
部署		主治医		科名		医師名					
開始予定日											
治療内容		Day 1 8 15 22 29									
予定日		1/0		1/7		1/14		1/21		1/28	
サイラムザ		8 mg/kg		↓		↓		↓		↓	
レスタミン		5錠		↓		↓		↓		↓	
治療開始日		治療間隔		予定コース数		コース					
身長		150 cm		体重		50 kg		BSA		1.433 m2	
eGFR		60 mL/min		eGFR/BSA		50 mL/min					

開始基準 好中球 ≥ 1000 血小板 ≥ 75000 尿蛋白 : 100mg/以下 サイラムザの有害事象G2未満
--

Day 1、15
インラインフィルターを使用

- 1) 生理食塩液 50mL 30分
 ↓ 1) 開始と共にレスタミン5錠服用
- 2) 生理食塩液 250mL 1回目は60分
 サイラムザ 400mg 忍容性あれば
 (全量250mL) 以後30分で
 ↓
- 3) 生理食塩液 50mL フラッシュ

インフュージョンリアクション出現時 ⇒一旦中止 G1, 2の場合は対症療法後状況に応じて減速も考慮 G3, 4 は再投与しない

尿蛋白 100mg/dl以下でRAM投与 300mg/dl中止 減量 8→6→5mg/kg

高血圧	
G3未満	無症候性の場合⇒サイラムザ継続で降圧剤開始 症状あり⇒症状消失までサイラムザ中断で降圧薬継続 コントロール不良でサイラムザを2回中断するとき6mg/kg 更に延期が必要な場合、5mg/kgに減量
G3	無症状⇒強力な降圧剤を併用しサイラムザ継続 2週間こえてG3の場合降圧剤は継続、サイラムザ中止 2回以上中断時は6mg/kg、更に投与延期5mg/kg

化学療法計画書

治療法名		トラスツズマブ/カペシタビン			
コース数		コース目			
腫瘍種	胃癌				
患者氏名				♂	年齢
患者ID			生年月日		
部署			主治医	科名	医師名
開始予定日					
治療内容	Day	1	8	15	22
	予定日	1/0		1/14	1/21
トラスツズマブ	6 mg/kg	↓			
カペシタビン	2000 mg/m ²	→			
ピリドキサル	60mg	(朝・夕食後)			
治療開始日		治療間隔	4週毎	予定コース数	コース
身長	150 cm	体重	50 kg	BSA	1.433 m ²
eGFR	60 mL/min	eGFR/BSA	50 mL/min		

Day 1
<ul style="list-style-type: none"> ・ WBC ≥ 3000 または 好中球 ≥ 1500 ・ Plt ≥ 10万 Hb ≥ 9.0 ・ AST/ALT ≤ 2.5 × ULN ・ T-Bil < 1.5 × ULN ・ Cr < 1.5 × ULN <p style="color: blue;">カペシタビン (CCr < 30未満は禁忌、30 ≤ CCr ≤ 50は75%量)</p>

中止基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ NYHA III/IVに該当する心筋障害が発現した場合 ・ 基準値より低値になった場合 ⇒ トラスツズマブ中止

	カペシタビン投与	カペシタビン減量基準		
		1回目	2回目	3回目
G3好中球減少 G3血小板減少	休薬 (最大14日間) G0-1になるまで	減量不要	減量-1	減量-2
G2 (上記外)		減量不要 or 減量-1	減量-1	減量-2
G3 (上記外)		減量-1	減量-2	中止
G4 (上記外)		事象毎に判断		中止

1) 生理食塩液	50mL	↓		血管確保
2) 生理食塩液	250mL	↓		30分
トラスツズマブ	300mg	↓		
3) 生理食塩液	50mL			フラッシュ

カペシタビン ピリドキサルはDay1の夕から心機能モニタリング12週毎

参考：カペシタビン投与量		
体表面積	1回用量	
1.36m ² 未満	1200mg (4錠)	
1.36m ² ~1.66m ² 未満	1500mg (5錠)	
1.66m ² ~1.96m ² 未満	1800mg (6錠)	
1.96m ² 以上	2100mg (7錠)	
カペシタビン減量時投与量		
体表面積	1回用量	
	減量1段階	減量2段階
1.41m ² 未満	900mg	600mg
1.41m ² ~1.51m ² 未満	1200mg	900mg
1.51m ² ~1.81m ² 未満		
1.81m ² ~2.11m ² 未満	1500mg	1200mg
2.11m ² 以上		